

平成30年度
セント・ピーターズバーグ市派遣
高校生親善研修生報告書

平成30年7月23日(月)～8月2日(木) 11日間



公益
財団
法人

Takamatsu International Association

高松市国際交流協会

目次

1. セント・ピーターズバーグ市派遣 高校生親善研修生滞在日程表	1
2. フォトギャラリー	3
3. 引率者感想文 高松市教育委員会学校教育課 久保 朗 「多くの方々の親切のもとで」	5
4. 親善研修生 報告書 I 香川県立高松高等学校 定時制 2 年 近藤 静菜 日誌・活動記録	7
感想文「視野」	16
5. 親善研修生 報告書 II 高松第一高等学校 2 年 瀧川 沙楽 日誌・活動記録	17
感想文「感謝」	27
6. 親善研修生 報告書 III 香川県立高松西高等学校 2 年 山之内 萌 日誌・活動記録	29
感想文「世界の広さを実感した 10 日間」	39

平成30年度セント・ピーターズバーグ市親善派遣研修生 滞在日程表

平成30年7月23日(月) - 8月2日(木)

日時	場所	研修内容
7月23日(月)	高松空港—タンパ空港	・高松空港：出発式 ・シカゴ空港経由でタンパ空港へ ・セント・ピーターズバーグ市役所職員、 ホストファミリーによる出迎え
7月24日(火)	セント・ピーターズバーグ商工会議所	・高松市についてのプレゼンテーション
	The Hangar Restaurant	・歓迎昼食会
	ダリ美術館	・サルバドール・ダリの作品鑑賞 (現地連絡員による解説)
7月25日(水)	トロピカーナ・フィールド	・タンパベイ・レイズ野球観戦
7月26日(木)	イマジン美術館	・館内見学
	セント・ピーターズバーグ市役所	・市長表敬 ・議場見学 ・高松市についてのプレゼンテーション
	平成30年度受入親善研修生宅	・ハロウィンパーティ
7月27日(金)	Boyd Hill Nature Park	・園内見学
	セント・ピーターズバーグ歴史博物館	・館内見学 (担当者による解説)
7月28日(土)	The Hollander Hotel	・SPIFFES【セント・ピーターズバーグ国際民族会】のメンバー及び、ホストファミリーとの食事会
7月29日(日)	ウォルトディズニーワールド	・ホストファミリーからのサプライズイベント
7月30日(月)	セント・ピーターズバーグ市街	・壁画ツアー (担当者による解説)
7月31日(火)	【ホストファミリーデー】	
	Sunshine Center Auditorium	・SPIFFS 主催の送別会 ・高松市についてのプレゼンテーション ・各国の民族舞踊の鑑賞 ・ポータラックパーティ (世界の料理)
8月1日(水)	タンパ空港	・関係者、ホストファミリーのみなさんによる見送り
8月2日(木)	高松空港	・研修生家族による出迎え

研修生：7/23(月)から8/1(水) セント・ピーターズバーグ市でホームステイ

引率者：7/23(月)から7/25(水) セント・ピーターズバーグ市内のホテルに宿泊

7/26(木)から8/1(水) セント・ピーターズバーグ市でホームステイ

St. Petersburg Photo Gallery 2018

タンパ空港到着



商工会議所でのプレゼンテーション



グリ美術館見学



タンパベイ・レイズ野球観戦



Imagine Museum(イマジン美術館)見学



市役所訪問



市役所でのプレゼンテーション



真夏のハロウィンパーティ



セント・ピーターズバーグ歴史博物館見学



Boyd Hill Nature Park 見学



市街壁画ツアー

SPIFFS主催の送別会



引率者感想文

多くの方々の親切のもとで



高松市教育委員会学校教育課
久保 朗

高松を代表する高校生の研修生3名とともに、セント・ピーターズバーグ市を訪問できたことは、私の人生観、教育観を大きく広げてくれるものであった。引率業務として、まずは生徒の安全確保として、「国外での生活は大丈夫か」、「往復の乗り継ぎはできるのか」等の不安はたくさんあったものの、結果としては杞憂に終わった。研修生の自覚ある行動はもちろんのことだが、SPIFFS(セント・ピーターズバーグ国際民族会)のロッタさんをはじめ、そのメンバーの方々や、その他色々な場面で私たちの活動に携わっていただいた方々からの親切な配慮は大変ありがたかった。

添乗員なしの研修旅行で初めの関門は、シカゴのオヘア空港でのアメリカ入国であった。事前に旅行会社の方から、有人の入国審査の列に並ぶようアドバイスされていたが、流れに沿って進むと機械による顔認証システムを行うことになってしまった。しかし、日本語による表示システムを選択することができる機械であり事なきを得た。親切な機械に感謝。



案内人ダニエル尚子さんとオヘア空港で

次の関門はシカゴからタンパ行きへの乗継だったが、現地での日本人の案内人であるダニエル尚子さんに誘導していただき難無く進めた。当初聞いていた移動方法とは異なり、バスでの移動となっており、案内人なくしてはどうなっていたことやら?と思われる。案内人に感謝。

タンパ空港では、それぞれのホストファミリーに迎えられ、研修生たちは問題なく移動になったが、私は現地在住の日本語講師(野津さん、送別会で再会できた)の方に、ホテルまで送迎していただいた。市の職員の方の送迎と聞いていた予定とは異なったが、日本人の方に送迎、ホテルのチェックインの補助までしていただいた。野津さんに感謝。



ロッタさんと商工会議所前で

時差ボケも関係なく2日目からの公式行事では、ロッタさんに毎日研修生の活動を支援・補助していただいた。ロッタさんだけでなく、行事ごとにSPIFFSのメンバーの方々が加わっていただき、複数の方による支援をいただいた。その中でもメアリーさんは、ほぼ全ての行事に参加して下さり、研修生を支援していただいた。メアリーさんに感謝。

ダリ美術館では、現地連絡員でもあるプランタムラさんに大変お世話になった。その後の市長訪問(実際には市長は不在で副市長が

対応してくださる) やセント・ピーターズバーグ歴史博物館、BBQ & Pool Party、送別会等多くの行事で、研修生の活動が有意義なものになるよう、親切丁寧に対応していただき、本当に助かった。現地でもメールで相談させていただき、私の心の支えであった。また、プランタムラさん夫妻には2日目の行事の後、車で市内観光やスーパーマーケットを案内していただいたり、夕食をご馳走になったりした。プランタムラさんご夫妻に感謝。



プランタムラさん夫妻と

トロピカーナフィールドでのタンパベイ・レイズの野球観戦では、高松に来た高校生の日本語講師のテイラーさんにお世話になった。テイラーさんは、



SPIFFSのメンバーの方々

日本語を勉強したいという強い意志と私たちへの親切心から、日本語でコミュニケーションを取ろうとしてくれた。また、テイラーさんと同行していた妹さんや娘さん、他の子どもたちの言動は、アメリカを知るきっかけでもあった。彼らはセント・ピーターズバーグ歴史博物館や送別会でも顔を合わせ、場の雰囲気や和ませてくれた。テイラーさん一同に感謝。

BBQ & Pool Party や送別会では SPIFFS の日本人メンバー、ちかさんにもお世話になった。数少ない現地の日本人として、英語では伝わりにくい私たちの気持ちを理解してくれるのが嬉しかった。送別会では、今後の交流に向けて色々とおアドバイスもいただいた。SPIFFS の日本人メンバーに感謝。

最後になったが、私を迎え入れてくれたホストファミリーのナンシーさん、ロバートさん夫妻から受けた数え切れない親切・配慮には感謝しきれない。普段の生活リズムを崩す訪問者を快く受け入れていただき、何不自由のない生活をする事ができた。「何が食べたい」、「どこへ行きたい」、「よく眠れたか」等々、常に私のことを気に掛け、大変気を遣ってくれている事を強く感じた。「日曜日に教会へ一緒に行かないか」、と誘われ教会へ行ったり、図書館やスーパーと一緒に買い物に行ったり、犬の散歩で近くを歩いたり、アメリカ人の普段の生活をする事ができたのは、とても良い経験だった。ビーチを散歩したりメキシコ湾に沈む夕日を見たりと、疲れているはずなのに、時間があれば私のためにと多くのことを計画してくれた。ホストファミリーに大感謝。



ホストファミリー夫妻との夕食

多くの人の親切に支えられ研修は無事終了した。お世話になった全ての方々への感謝を忘れず、この貴重な経験を少しでも多く高松市に還元したい。両市の友好関係が継続されるよう、私としては貴重な経験を教育現場で活かしていきたい。

親善研修生 報告書 I

日誌・活動記録

香川県立高松高等学校 定時制 2年 近藤 静菜

7月23日(月)

今日は出発の日。朝6時30分に高松空港に集合して、出発式を終えた後、飛行機に乗った。いよいよかと思うとワクワクすると同時に、初めての海外での生活や家族と離れることへの不安が押し



シカゴ空港

寄せてきた。羽田空港に着き、シカゴ行きの飛行機に乗った。私は小さい頃から飛行機が怖く、約12時間のフライトに恐怖を感じていたが、寝たり、映画を見たり、ゲームをしたりしていると、思ったよりも早く時間が過ぎた。シカゴに着き、タンパ行きの飛行機まで時間があつたので空港内を見て回った後、搭乗待合室で眠ってしまった。既にとっても疲れていたが、もうすぐ皆に会えると思うと胸が弾んだ。今回私を受け入れてくださるオルソン一家は、セント・ピーターズバーグ市親善研修生として9日間我が家に滞在していたオリビア、ホストマザーのサザンヌ、ホストファザーのレイモンド、ホストブラザーのルーク。約3時間飛行機に乗り、ようやくタンパ空港へ到着しゲートを出ると、オリビア、同じく親善研修生のタリナ、カイを含め、大勢の人が笑顔で出迎えてくれていて安堵した。ルークが「Welcome Shizuna シズナ」と手書きの紙を持っていてくれて嬉しかった。オリビアの家へ向かう車内では、飛行機で見た映画の話や、オリビアが日本で教えてくれたスペイン語を話すと、とても喜んでくれた。家に着くと、レイモンドが「どうぞよろしく」とこっそりメモを見ながら日本語で挨拶をしてくれ、犬のモーリーは尻尾を振って出迎えてくれた。猫のトゥーンセスは、人見知りしながらも私を受け入れてくれた。部屋に案内された後、ホームツアーをしてくれた。とても広い家で、至る所に家族の写真が飾ってあり、仲の良さが窺えた。夕食は、サイコロステーキ、ブロッコリー、レイモンドさんが焼いたサーモンに加えてご飯が出された。この時に食べたご飯は、日本のお米よりも細長く、初めて食べる味だった。サザンヌに「美味しい？」と聞かれ、微妙な反応をしてしまったので、それから二度とご飯は出なかった。夕食後、ルークとWiiでマリオを楽しんだ。とても疲れていたなので、部屋に戻り明日の予定を確認してから、倒れるように就寝した。

7月24日(火)

8時にアラームをセットしていたが、6時40分に目が覚めた。朝食は、パン、スイカ、イチゴ。気を遣ってくれたのか、オリビアが日本で買った柴犬のお箸を出してくれた。今日は商工会議所でプレゼンテーションをするので、荷物をしっかりと確認してから家を出た。商工会議所まではオリビアが運転してくれたが、自分と同年の子がハンドルを握って



商工会議所にて

いる姿に少し違和感を覚えた。私達が大好きなアメリカのドラマ「glee」の曲を大音量で流してくれた。アメリカ人は、日本人より時間にルーズなイメージがあったので心配していたが、集合時間に遅れることなく到着したので安心した。プレゼンテーションでは、屋島やお遍路、丸亀町商店街など高松の魅力を紹介した。とても緊張したが、皆さんがにこやかに聞いてくれたので少しリラックスできた。パソコンが上手く反応せず悔しかったが、無事に1回目のプレゼンテーションを終えた。オリビアが「Good job」と言ってくれて嬉しかった。商工会議所の職員の方々は、とてもフレンドリーに話



木登り

しかけてくれ、初めての海外で緊張していた私は、肩の力を少し抜くことができた。商工会議所の入口はカラフルなお土産屋さんになっており、見ていだけで楽しかった。12時のウェルカムランチまで時間が空いたので、「Sundial」というスーパーマーケットへ歩いて向かった。ここは地元の人がよく行くスーパーマーケットらしい。ハンバーガーやサンドウィッチ、スイーツが売られていて、小さなフードコートのような所だった。その後、ダウンタウンを散策して大きな木に登り写真を撮った。「The Hangar Restaurant」は海の近くにあり、車内からはとても綺麗な景色が見えた。お店で出てきたお冷のサイズが、日本の2倍以上の大きさと文化の違いを感じた。もちろんメニューは全て英語表記で、写真も載っておらず戸惑っていたら、タリンナがチキンとワッフルの料理を勧めてくれた。ワッフルの上にチキンが乗っていて、その上に甘いソースがかかっていた。チキンがカリカリしていて美味しかったが、量が多く半分しか食べられなかった。ずっと楽しみにしていたダリ美術館では、ユニークな絵を見て回った。ダリの一生や人間性を教えてもらった上で、ひとつひとつの絵の説明を聴きながら見ると、より一層、面白みが深まった。その中でも、1つの絵の中に2つの絵が描かれているトリックアートのような作品が心に残った。その後、カイの伯父さんの家へ行き、初めて本場アメリカのハンバーガーをご馳走になった。日本のハンバーガーとそれほど変わらないだろうと思っていたが、お肉がジューシーでとても美味しかった。食べ終わった後、海でパドルボードをしたが一人で漕ぐのは怖かったので、カイの後ろに乗せてもらった。楽しかったがカイが揺らしてきたので、怖さが勝った。それから、カイ、瀧川さんと私は、オリビアの運転で「St. Pete beach」へ向かった。車内では、耳と頭が痛くなるほどの音量で音楽を流していた。既に20時を過ぎていたが、まだ日が昇っていてちょう

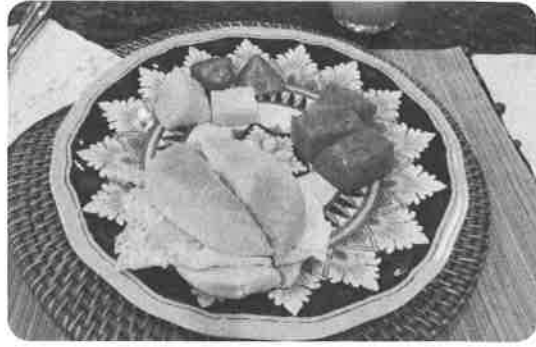


ダリ美術館にて

ど日の入りを見ることができた。セント・ピーターズバーグのピンクの太陽と白い砂浜が相まってとても幻想的だった。ビーチの近くのスーパーマーケットへ行き、オリビアがハーゲンダッツを買ってくれた。アメリカのハーゲンダッツは僅か1ドルで、日本との差に驚いた。カイが、「自分は嫌いだけど」と言いながら勧めてきたドクターペッパーという炭酸飲料を初めて飲んだが、私の口にも合わなかった。21時頃帰宅し、シャワーを浴び無事に一日目を過ごせた事に安心して倒れるように就寝。

7月25日(水)

8時20分起床。朝食は、卵サンド、スイカ、パイナップル、オレンジジュース。今日は、トロピカーナ・フィールドでタンパベイ・レイズの応援をするので青い服を着て家を出た。SPIFFS（セント・ピーターズバーグ国際民族会）の事務局で全員の集合を待っている時、SPIFFSのメンバーであるメアリーさんが「今日はあなた達の名前が会場のスクリーンに写し出されるサプライズがあるよ」と教えてくれた。トロピカーナ・フィールドの駐車場はとても混んでいて、試合に遅れそうだったがギリギリ間に合った。案内された部屋は、半個室



朝食



タンパベイ・レイズの応援

のようになっている貴賓席だったので驚いた。話に聞いていた通り、冷房が効いていて肌寒かった。オリビア、タリナ、カイと3人の日本語の先生であるテイラーの子供たちを連れて「dippin' dots」という、カラフルでつぶつぶの入った甘いアイスを買った。この時私はアメリカに来て初めてお金を払った。初めて見るアイスだったが、実は日本にもあるらしい。アイスを買って戻ると、ちょうどスクリーンに私達の名前が映し出され、今日はいないと聞いていた田中将大選手もモニターに映った。

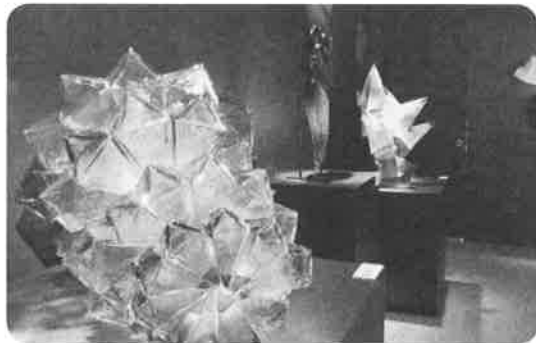
更に、終盤には私達の姿がスクリーンに映り、喜びを抑えきれなかった。試合はタンパベイ・レイズの勝利。その後、昨日も行った「Sundial」でハンバーガーを食べた。ここのハンバーガーもジュシーで美味しかったが、量が多くて食べきれなかった。17時頃、皆でオリビアの家へ行き、釣りをしたが、私だけ一匹も釣れず悔しかった。私が「マンマミーア」というミュージカル映画が好きなことをオリビアが覚えていてくれて、ちょうど続編がアメリカで上映中だったので「Cobb」という映画館へ行った。座席がリクライニング式になっていたり、Sサイズのドリンクが日本で言うLサイズの大きさだったり、文化の違いを感じることができた。日本では8月から観られるが、アメリカの映画館へ行けたことが嬉しかった。21時半過ぎに帰宅し、明日の準備をして24時頃就寝。



釣り初体験

7月26日(木)

7時50分起床。朝は、ワッフル、桃、オレンジジュース。桃の色がオレンジだったので少し驚いた。ワッフルにお箸を出され困惑したが、せっかくなのでお箸を使って食べた。出発まで時間があったので、ルークとWiiをして遊んだ。今日は、午後に市役所へ行くのでスーツを着て家を出た。「Imagine Museum」を見学して、ガラスアートを鑑賞した。日本人の作品もあり、どれも素敵なものばかりだった。市役所へ行くまで時間があったので、歩



ガラスアート

いて近くの本屋へ行った。日本語の本が数冊置いてあり、日本人でも言わないような言葉が載っており皆で大笑いした。レジで男性の店員さんが気さくに話かけてくれた。広島に行ったことがあるらしく、日本について興味津々に質問してきたが、上手く答える事が出来ず悔しかった。そして、高松市からの親善研修生と知ると、マップを出してセント・ピーターズバーグでのおすすめの場所を教えてくださいました。気づけば15分程話しており、日本ではあり得ないことだろうなど、ここでも文化の違いを感じた。昼食は、メキシコ料理屋でタコスを食べた。店内はカラフルでポップなデザインになっていて可愛かった。昼食後、街を散策してスターバックスも行ったが、意外と日本とは変わらなかった。



本屋にて親切な店員さんと



市役所にてカイのお母さんの副市長と

市役所を訪問すると、外にはアメリカの国旗とセント・ピーターズバーグ市の旗と一緒に、日本の国旗が掲げられていた。入口には荷物検査があり、厳重なセキュリティに驚いた。市長は、フランスへ行っていてお会いすることはできなかったが、副市長であるカイのお母さんのカニカさんが建物内を案内してくれた。高松から贈った扇子やこけし、更に兜まで飾られていた。商工会議所よりも厳かな雰囲気ですり緊張したが、ただ原稿を読むだけでなく、図を指したり、相手の顔を見ながら話したりなど、1回目の改善点を意識しながらプレゼン

テーションができた。市役所の皆さんと写真撮影をした後、ある女性の方が話しかけてくれた。「私は約20年前に高松へ行ったことがあり、それから日本が大好き。頑張ってるね」と言ってくださり、本当に嬉しく温かい気持ちになった。

今日の夜はカイの家でフェイクハロウィンパーティーをされると言われていたので、コスチュームを見に行った。このパーティーはセント・ピーターズバーグ市の親善研修生たちが企画してくれたものだ。いろいろな種類のコスチュームが売っていたが結局何も買わず、スーパーマーケットでかぼちゃ代わりにスイカを買った後、オリビアの家へ帰った。オリビアは衣装を何十着も持っていて、私はその中からサメを選んだ。カイの家にお邪魔すると、犬のパーティーが尻尾を振って迎え



ハロウィンパーティー

入れてくれた。ピザとコーラというアメリカンな食事をして、近所の子供たちも何人か加わり、お菓子を貰いに近所の家を回った。アメやチョコレートを買った袋いっぱい貰い、最後の一軒を訪問すると高齢のご夫婦が家に迎え入れてくれた。「これを見て」と言われアルバムを見ると、なんとそのご夫婦が高松へ訪問した時の写真だった。うどんを食べている写真や、歌舞伎の写真が載っていて驚いた。カイの家へ戻ると、カイ、タリナ、オリビアが、何やらこそこそとして封筒を渡された。開けてみると、「Disney」と書かれた手紙が入っていた。3人が高松にいる時に「あなた達がアメリカへ来た時、ディズニーに行きたいけど難しいかもしれない。」と言われていて、先ほど行ったお店でも「ディズニーは行けない」と嘘をつかれていたのだ。これは、3人が企画してくれたサプライズなのだろう。正直、手紙を渡される前にオリビアがカメラを回し始めた時点で察してしまったので、瀧川さんと山

之内さんと一緒に大笑いしてしまいました。帰りの車でオリビアに「驚いた？」と聞かれ、正直に話すことはできなかった。とにかく、日曜日にディズニーへ行けるので楽しみだ。21時過ぎに帰宅し、ルークとWiiをして23時頃就寝。

7月27日(金)



大好きな蛇とのふれあい

8時起床。朝食は、卵サンド、ベーコン、イチゴ、スイカ、オレンジジュース。「Boyd Hill Nature Park」に9時集合だったが、道に迷って少し遅れた。自然の中を歩きワニやリスを見たが、帽子を被ってくるのを忘れ、とても暑かった。屋内では、大好きな蛇に触ることができた。蛇に触れるのは、3年前の沖縄へ行った時以来だった。嫌いな蜘蛛も勧められ断ったが、蛇を触ったばかりに触れると思われ手のひらに乗せられた。ダウンタウンを散策し、小さな美術館のようなところへも行った。バスがカラフルでおしゃれだった。12時頃にセント・

ピーターズバーグ歴史博物館を訪れた。天井から大きな飛行機の模型が吊るされていて、ライト兄弟の映像が流されていた。男性職員が熱心に説明をしてくれたが、所々聞き取れず悔しかった。ギネスに認定されている程の数の野球のサインボールが展示されていた。イチロー選手や、岩村明憲選手のサインボールも飾られていて嬉しかった。昼食は、タリンナと一緒に日本食レストランへ行き、お寿司を食べた。初日のトラウマがあったが、とても美味しいお寿司だった。昼食後、タリンナのお母さんが迎えに来てくれ、タリンナの妹と私達をタンパ空港の近くのショッピングモールへ連れて行ってくれた。ここは昨日、本屋の店員さんが勧めてくれた場所だった。広い敷地にお店がたくさん並んでいてワクワクした。有名なスポーツブランドの服や靴が、日本の半額で売られている事に驚いた。ディズニーストアでタリンナのお母さんが、明日のために、と赤いミッキーのTシャツを買ってくれた。一目惚れしたジーンズを買い、夕食はホットドッグを食べた。20時半過ぎに家に帰り夕飯を食べた後、家族とボードゲームをした。高松でオリビアにプレゼントした折り紙で鶴も作り、ずっと渡せていなかったお土産も渡すことができた。渡した筆ペンで「セント・ピーターズバーグ」と書くと、とても喜んでくれた。朝早くからのスケジュールで疲れていたの、シャワーを浴び、すぐに深い眠りについた。



セント・ピーターズバーグ歴史博物館



家族団欒

7月28日(土)

今日の前日は午後からなので、のんびりと10時に起床。朝食は、パンケーキ、イチゴ、パイナップル。家を出るまで何をしようか考えていたら、11時にビーチへ行くと言われたので急いで支度をして「St.



St.Pete Beach

Pete Beach」へ向かった。白い砂浜と透き通った水がとても綺麗だった。海に浸かりながら、ディズニーについてたくさん話した。一旦家に帰り、レイモンドとスザンヌも一緒に「The Hollander Hotel」へ向かった。せっかくなのでプールに入ったが、気温が高かったので温水になっていた。昼食はバーベキューだと知らされていたが、ハンバーガーとホットドッグ、サラダがバイキング式に並んでいた。やはり、お肉がジューシーで美味しかった。すると、スザンヌが「渡すものがある」

と言って、ミッキーのTシャツをくれた。ありがたかったが、タリンナのお母さんが買ってくれたTシャツとどちらを着ていくか迷った。この後、オリビアの家でボートに乗ることになった。帰宅して、モーリーとトゥーンセスと戯れていたら、オリビアの友達ソフィーが訪れてきた。オリビアとは小さい頃からの親友らしい。ソフィーも一緒にオリビアが好きな「TARGET」というスーパーマーケットへ行った。食品だけでなくカフェも併設されており広がったが、時間が無かったので何も買えなかった。ボートと聞きパドルボートのようなものを想像していたが、レイモンド



ホテルのプール

の操縦する大きなクルーザーに乗って海に出た。たくさんのクルーザーが海を走っており、手を振ると皆笑顔で振り返ってくれた。昼に行った「St.Pete Beach」の近くで地平線も見ることができた。モーリーは海が大好きらしく、嬉しそうにクルーザーを行ったり来たりしていた。やはり海は少し怖かったが、怖さが吹き飛ばす程のとても楽しい初体験だった。1時間程クルーザーに乗った後、オリビアの家のプールで遊んだ。ソフィーは飛び込みをしているらしく、回転しながらプールに飛び込んだりしていた。夕食は、プールサイドでピザを食べた。明日はスザンヌの誕生日なのでケーキもいただいた。とても甘かったが美味しかった。明日に備え早めに就寝。



船が大好きなモーリーと

7月29日(日)



オリビアと

今日はいよいよディズニーの日。5時50分に起床し、オリビアのお母さんに貰ったTシャツを着て7時に家を出た。朝食は車で卵サンドを食べた。9時前にディズニーに到着し、船に乗って「マジックキングダム」へ入場し、窓口で「1st visit」と書かれた缶バッジを貰った。日本のディズニーとは少し違い、入園するときファストパスを予約するらしい。このシステムのおかげで、10時過ぎに「ビッグサンダー・マウンテン」に乗ることができた。「アラジンのマジックカーペット」へ乗った後、タリンナと山之内さんと合流して「ホーンテッドマンション」に乗った。昼食は、「クリスタル・パレス」というレストランでプーさんやピグレットに会った後、バイキングを楽しんだ。スザンヌの誕生日だったので、キャラクター達

のサインが書かれた色紙をプレゼントされていて、とても嬉しそうだった。15時頃、いままで晴天だったが急に大雨が降ってきた。セント・ピーターズバーグに来てからは、毎日朝と夕方に通り雨が降るので、すぐに止むと思っていたが、アトラクションに乗った後も、なお降り続けていた。「ピーターパン」や「アリエル」のアトラクションなど、全部で10個程乗ることができた。ディズニーワールドは日本のディズニーよりも人が少ないと聞いていたが、あまり変わらなかった。20時過ぎには、ビーチで見たピンクの夕日とは違い、綺麗なオレンジ色の夕焼けも見ることができた。お土産屋さんでお菓子和ピンバッジを買い、21時から花火が打ち上がった。船から見た花火は、まるで夢のようだった。23時半過ぎに帰宅し、就寝。



花火

7月30日(月)



市街壁画ツアー

ターである太陽の絵が描かれたものや、カラフルで可愛いものもあり、見ているだけで楽しかったが、案内人の女性が早口で聞き取ることに苦戦した。途中でまた雨が降ってきた。1時間程で壁画ツアーを終え、昼食は、オリビア、タリナ、ジョーダンと「Chick-fil-A」というハンバーガーショップへハンバーガーを食べに行った。フライドポテトが甘くて美味しかった。昼食後ジョーダンと別れ、「TARGET」へお土産を買いに行った。今日までお土産を買う時間がなかったため、約1

時間も店内を歩き回ってお土産を探した。数個入りのお菓子が欲しかったが、極端な大きさの物しかなかったので箱のお菓子をいくつか買った。その後ボーリングに行き、旅行に行っていたカイと数日ぶりに再会した。夕方、「Steak 'n Shake」という所で飲んだシェイクが美味しかった。「Walmart」というカイおすすめのスーパーマーケットへ行った。今まで行ったどのお店よりも広く、また少しお土産を買ってしまった。カイは、またすぐにカルフォルニアへ飛び立つので、「また会おうね」と約束を交わし、お別れを言った。夕方、家に帰り、ルークと一緒にモーリーとトゥーンセスと遊んだ。夕食

9時15分起床。昨日は疲れてシャワーを浴びずに寝てしまったので、シャワーを浴びてから家を出た。今日までに街中でたくさんのオシャレな市街壁画を見ていたので、今回の壁画ツアーをととても楽しみにしていた。集合場所には、去年の親善研修生のザックと、ザックの彼女のジェシカも来ていた。オリビアの友達のジョーダンも合流した。ジョーダンとは、オリビアが高松にいる時に電話をしたことがある。明るくてニコニコした女の子だった。他にも見知らぬ人が増えていて困惑した。壁画には、セント・ピーターズバーグのキャラク



ホストファミリーと食べる最後の夕食



モーリーの散歩

は、ポテト、ブロッコリー、そしてレイモンドさんが釣った魚だった。食事中、モーリーが足に顎を乗せてきて可愛かった。夕食後、オリビアとルークに誘われ、モーリーの散歩へ行った。オリビアがスペイン語を話し、ルークがフランス語、私が日本語を交えて話していて非日常的な光景だった。夜は3人でWiiをして遊んだ。これが最後かと思うととても悲しい。少しパッキングをしてから就寝。

7月31日(火)

8時半起床。雨が降っている。今日はホストファミリーと過ごす予定だ。今までホストファミリーと過ごす時間が少なく、それがとても心残りだった。だから昨日「明日は何をしたい？」と聞かれ、すかさず「ホストファミリーと過ごしたい」と伝えた。スザンヌとオリビア、ルークと一緒に10時に家を出て、レストランでパンケーキを食べた。パンケーキが想像より遥かに大きく驚いた。スザンヌが私の好き嫌いを把握していたり、自分のフ



海沿いのおしゃれなお店

ルーツを「自由に食べて」と言ってくれたり、些細な事だが母親の温かさを感じた。一旦家に帰りピアノを弾いていると、スザンヌが「その曲大好き」と言って動画を撮り始めた。照れくさかったが嬉



水族館

しかった。オリビアはインターンがあるので、スザンヌと「ジョンズ・パス」というビーチ沿いのお店へ行った。フォトフレームやアクセサリーなど可愛いお土産がたくさん売られていた。一目惚れした貝殻のネックレスを買い、帰宅してルークと一緒にピアノとギターに弾いた。昼食は、レイモンドが焼いてくれたお肉でハンバーガーを食べた。オリビアが家に帰ってきて、瀧川さんも一緒にタンパの水族館「The Florida Aquarium」へ行

った。カイと、冒険家だったカイのお父さんの写真が飾られていて、とても驚いた。魚だけでなく、蛇や鳥も

見る事ができた。4-Dシアターでは、海の生物の生活を見ながら、水しぶきがかかってくるようなリアルな感覚が面白かった。送別会には、全てのホストファミリーや、お世話になった方々がたくさん集まっており、最後のプレゼンテーションをしたが、あまり緊張しなかった。様々な国の民族衣装を着て、その国のダンスと歌を披露してくれた。そして、多国籍料理がふるまわれ、ウィンナーやスコーンに加えて、いなりや寿司など日本料理なども味わった。後悔しないようにと、今までお世話になった人と写真を撮って挨拶をしていると、本当に最後なんだと思い、泣きそうになってしまった。明日、レイモンドとルークは空港に来ないので、お別れを言い合っ



送別会にて

た。オリビアが生まれる前、キャビンアテンダントをしていたスザンヌにアドバイスを貰いながらパッ

キングをしたが、お土産をたくさん買っていたので荷物が増えてしまった。1時過ぎに就寝。オルソン家で過ごす最後の夜だ。

8月1日(水)



タンパ空港にて

3時起床。手紙を書こうと思っていたが、時間が無かったのでメモに一言ずつ書いていた。途中、いきなりドアを開けられ驚いたがなんとかごまかし、書き終えたものはタオルの下に置いた。リビングへ行くと、今日は、もう会えないと思っていたレイモンドとルークがいて驚いた。本当はきちんと感謝を伝えなかったが、ハグをした瞬間、泣きそうになってしまい、「ありがとう」としか言えなかった。車の中で、セント・ピーターズバーグで経験したことが頭の中を駆け巡った。タンパ空港に着くと、アメリカを去る実感が湧いてきた。みんなで写真を撮り、オリビアとスザンヌとハグをした。オリビアが「飛行機で読んで」と手紙をくれた。ここでも、話すと涙が溢れてきそうだったので、「ありがとう」と言うことで精いっぱいだった。飛行機からピンク色の朝焼けを見ながら、絶対にまた戻って来よう、と思った。

8月2日(木)



飛行機から

タンパ空港を出発してから、約27時間で高松空港へ。やっと到着した安心感と、この研修が終わってしまう寂しさが同時に込み上げてきた。いつかまた再会できるよう、目の前にあることを精いっぱいこなし、自分をより高めようと思う。

感想文



香川県立高松高等学校 定時制 2年
近藤 静菜

視 野

私はこの研修で初めて海外を訪れた。上手くコミュニケーションがとれるかなど、海外での生活にたくさんの不安を抱いていた。しかし、セント・ピーターズバーグはそんな不安も吹き飛ばすくらい、優しい人と優しい心で溢れていた。最初は、完璧に話さなくては、と思い、怖くてなかなか思いを口にすることができなかったが、こちらに伝える気持ちがあれば、一生懸命汲み取ろうとしてくれ、怖がらずに話すことができるようになった。初対面の人でもまるで友達かのように話しかけてくれるなど、些細な事だが文化の違いを肌で感じる事ができた。10日間をセント・ピーターズバーグで過ごし、学校で学ぶ英語やテストでいい成績をとる事と、現地で過ごす事とは全くの別物だと思った。また、日本以外はこうだろう、と思っていた事が偏った考えだった事を知った。日本についての質問もたくさん受けたが、答えに詰まってしまい、自分の知識の浅さも思い知った。

海外で異文化に触れる事はもちろん重要だが、まずは日本についてよく知ることが大切だと思った。この研修で自分がどれ程無知で、どれ程視野が狭い人間だったかを学ぶことができた。この貴重な経験で学んだ事、悔しい思いを忘れずに、これからも日本の文化はもちろん、異文化に触れ続けたいと思う。

親善研修生 報告書 II

日誌・活動記録

高松第一高等学校 2年 瀧川 沙楽

7月23日(月)

あつという間に、出発の日がやってきた。パスポートを何度も確認して家を出発した。次に家に帰ってくるのは11日後。無事に帰って来られるように願って家を出た。意外にも不安も緊張も海外に行くという実感もあまりなかった。高松空港のカウンターで大きなスーツケースを2つ預けて、簡単な出発式の後いよいよ出発となった。保安検査場に入る前に、見送りに来てくれていた母に笑顔で手を振った。その時も全然悲しいという気持ちはなく、セント・ピーターズバーグ市での研修がそれほど楽しみでいるのだと分かった。1時間ほどで羽田空港に到着し、いよいよ日本を出国した。国際線ターミナルでは私の好きなキャラクターのラッピング飛行機に遭遇し、眠かった私の心が晴れた。国際線は長時間移動だった。羽田空港を出発して約12時間後、アメリカのシカゴ・オヘア空港に到着した。そこでは、私が何度経験しても緊張してしまうアメリカへの入国審査が待っていた。入国審査では、初めて指紋をとられ大人の仲間入りをしたようで嬉しかった。いくつかの簡単な質問に落ち着いて答えることができ、無事アメリカに入国できた。日本とは時差があり昼夜が逆なので、乗り継ぎの待ち時間は昼なのにと眠たかった。本日3回目の搭乗。次はアメリカの航空会社で日本語は通じないため頑張ろうと覚悟していたが、離陸する前から眠りについてしまい、その心配は全く無用だった。30時間近くの長旅の末、セント・ピーターズバーグ市に近いタンパ空港に到着した。空港では、今年



空港での歓迎

のセント・ピーターズバーグ市からの研修生でもある、私たちのホストファミリーからの大歓迎を受けてとてもうれしかった。私のホストファミリーのトマリン家は親善研修生として高松に来ていたカイ、14歳の妹のニア、セント・ピーターズバーグ市の副市長であるお母さんのカニカさんの3人家族だ。空港からの帰り道で「MAGGIANO'S」というイタリアンレストランで夕食を食べた。メニューは日本のように写真はなく文字だけでおまけに単語も難しく分からなかったが、携帯で写真を見せながらカイが説明してくれたので助かった。注文するときも、「Hi, how are you?」から始まり少し

話をした後、注文をしていた。日本よりもフレンドリーだなと思った。私は日本でも見かける白いチーズのソースがかかっているパスタを注文した。パスタの前にまずパンが運ばれてきた。私が、パンにチーズとオリーブオイルをつけて食べていると、ホストマザーとニアがそのうに酔をつけていて驚いた。パンはとても美味しかった。その次に、タコのから揚げが運ばれてきた。私のアメリカ人の友達が、前にアメリカ人はタコやイカが怖いのであまり食べないと教えてくれたことがあったので、タコを食べていてびっくりした。から揚げは、とても美味しくて日本で食べるものとても似ていた。その後、お待たかねのパスタが来た。量はそれほど多くなかったが、パンとから揚げで少しお腹が満たされていたので、完食できなかった。その後、車で帰宅した。車のナンバープレートに地域の絵がついていたり、種類がたくさんあったりして日本のものよりもかわいかった。そして、車の後方にしがついていなかった。途中で、タンパ湾を渡った。島が一つもなく瀬戸内海とは違った魅力があった。家に到着すると、最初に犬のピーティーに吠えられ、舐められ、臭いを嗅がれた。しかし、少し経つ

と懐いてくれたようで、私の部屋に入ってきてはこっそり靴を持って行くので、何度か追いかけてこした。ニアに家の中を説明してもらった。プールや暖炉などがあり、私の日本の家より遥かに大きかった。庭には考えられないくらい大きなバツタがいて驚いた。その後、カイのおすすめのアニメを見ていたが、時差ボケで眠すぎたので、先にシャワーを浴びて明日の準備をして早く寝ることにした。シャワーの仕組みが日本と全然違って、水の量と温度の調節が1つにまとめられていて、出し方が分からなかった。HとCの文字が書かれていたのだが、いくらHに回してもお湯が出ない。仕方なく、水で浴びた。次の日、きちんと聞こうと思った。今日一日とても長く疲れたが、これからのアメリカでの生活に期待して眠りについた。



アメリカの車のナンバー

7月24日(火)

8時まで寝ていいよと言われたが、7時前に目が覚めてしまった。リビングに行くとカイがテレビを見ていた。「朝ごはん何がいい？」と聞かれて、「シリアル」と答えたのでハニーのシリアルを出してくれた。牛乳と食べたシリアルは美味しかった。カイのお母さんは仕事が忙しく朝も早いので、少し遠くに住んでいるおばあちゃんが来てくれて私とカイを商工会議所へ送ってくれた。私たちは、商工会議所で20人くらいの前で1回目のプレゼンテーションをした。高松市の魅力やセント・ピーターズバーグ市との共通点を紹介するという内容だ。高松市の新屋島水族館にいるマナティを紹介した時には、タンパ湾でもマナティが見られるため、そこに共通点があることを初めて知ったようで、相槌を打ってくれたり、笑ってくれたり想像以上に反応が良かった。1回目のプレゼンテーションは成功に終わり、幸先の良いスタートとなった。昼食は、ダリ美術館と飛行場の近くにある「The Hangar Restaurant」というレストランで「チキン&ワッフル」を食べた。サイズも大きく、味も濃くて驚



チキン&ワッフル

ていると「これがアメリカだよ」とカイたちが笑って教えてくれた。その後、日本語の解説付きでダリ美術館を楽しんでいたのだが、寝不足とたまった疲れのせいか貧血に襲われて立っていられなくなった。なかなか回復せず歩けなくなってしまった。この後は、カイのおじさんの家でパドルボードをする予定だったが、私は休むことにした。移動中の車の中で20分くらい休憩すると回復してきた。カイのおじさんの家で、アメリカに来てから初めてのハンバーガーを食べた。美味しかったが、ピクルスがとても塩辛かった。その後、海に面している庭にある、小さな栈橋からみんなのパドルボードを見ていた。しかし、このころにはすっかり体調が回復していたので、やりたいという気持ちが勝ってしまった。水着に着替えてカイの後ろに乗せてもらった。風が気持ちよくて楽しかった。その後、庭にあるプールにも入った。泳ぐことが得意で大好きな私は、約2年ぶりに泳いで大満足だった。おじさんにお礼を告げ、それぞれの家へと帰った。家に帰って30分後、カイと同じ研修生のオリビアが、カイの家に車で迎えに来てくれた。今から、夕陽を見にビーチに行くというので、私たちも連れて行ってもらった。砂浜も海もとても広かった。日の入りの直前にビーチに到着して、海に沈んでいく太陽を見ていた。高松では見られない風景に感動した。その後、みんなで砂浜でジャンプして写真を撮った。とてもいい写真が撮れた。その後、ビーチの隣にある「Publix」というスーパーマーケットに行った。アイスクリーム売り場は、とても



白くて広いビーチ

たくさんの種類があり、アイスクリーム好きの私はとても嬉しかった。そこには、私の大好きなハーゲンダッツが日本より大きいカップでとても安く売られていた。アイスクリーム売り場で最も小さいものだったが、日本の1.5倍くらいあった。私は、即決し買うことにした。カイに「アメリカのコーラ挑戦してみる？」と、聞かれたのでカイのおすすめを聞いた。しかし、カイは「僕は好きじゃないけど、これがいいよ」と言って「Dr. pepper」を買ってくれた。一口飲むと、薬みたいな味がして私も好みの味ではなかった。

家に帰って、シャワーを浴びた。私の前に、ニアが浴びていたようで温度調節のところを触らずに出してみるとお湯が出たのでよかった。しかし、それはどちらか言えばCのほうにレバーは回っている。だから未だに、私はシャワーの仕組みが分からない。

7月25日(水)

朝、8時に起きた。昨日の夜、明日はホストマザーがパンケーキを焼いていると聞いたので、わくわくしながらダイニングへ行った。チョコレートとプレーンの2種類があり、私はチョコレートのホットケーキとソーセージを食べた。ソーセージは少し甘かったがとても美味しかった。今日は11時に集合だったため、時間があるのでニアが好きな「PRETTYMUCH」という歌手のミュージックビデオを見せてくれた。しばらくするとおばあちゃんが来たので、家を出た。集合場所まで行く途中に大きな交



トロピカーナ・フィールド

通事故現場の横を通った。私が見た時には、消防車、レスキュー車と救急車がちょうど到着したところだった。緊急車両のサイレンも形もランプの色も違っていた。その後、タンパベイ・レイズの試合観戦のため、トロピカーナ・フィールドに到着した。平日だったが、たくさんの野球ファンや学校の遠足で来ている生徒などもいた。私たちしか入れない個室のような部屋で見た。昼時だったので、お腹がすいていてアイスクリームを買いに行った。粒々のアイスクリームで、食べると舌にくっついた。とても冷たくて、ドライアイスのようなだった。3回終了

後のモニターに私たち3人の名前と「from JAPAN, TAKAMATSU」の文字が映った。事前に映るわよと言われたのだが、とっても嬉しかった。ゲームでは好プレーや本塁打などを見ることができてとても興奮した。試合は、タンパベイ・レイズの勝ち。とっても楽しかった。その後、ダウンタウンにある街の人がよく利用するスーパーマーケットに行った。そこで、遅めの昼ご飯にサンドイッチとレモネードを飲んだ。サンドイッチは、挟んでいたイタリアンサラミが塩辛かった。レモネードは少し変わっていて、ローズ風味で薄いピンク色だった。車で移動している途中に、路線バスとすれ違ったのだがバスの前に自転車が積んであった。乗客の自転車らしい。そしてセント・ピーターズバーグに来てから、トカゲを見る機会がとても多いことに気づいた。日本より小さいかあまり変わらないくらいだったのでそこまでの衝撃は受けなかった。その後、カイとオリビアの家で釣りをした。ナマズが釣れた。私にとって初めての釣りだったが、意外に釣れて面白かった。オリビアの家には、モーリーという名の犬がいた。モーリーの由来を聞くと、アメリカで犬につける人気の名前だと教えてくれた。その後、映画を見に行った。私は、入る前にスモールサイズのスプライトを買った。ここでも、スモールサイ

ズなのに多いなあと思いながら、一口飲んでみると何か味が違う。水で薄まっているような味だった。座席は日本より大きく、部屋の大きさの割には座席数が少なかった。足置きを伸ばすことができ快適だったので、寝てしまった。帰りは、ホストマザーが映画館まで迎えに来てくれた。今日は、たくさんの体験をして疲れたのかすぐに眠ってしまった。



映画館のドリンク

7月26日(木)

今朝、起きてリビングに行くとき「キッチンに『DUNKIN' DONUTS』で買ったドーナツがあるから食べていいよ」と言われたので、砂糖がかかったドーナツを選んだ。中にはイチゴジャムが入っていて美味しかった。朝、とても激しい雨が降っていたが集合場所の「Imagine Museum」についた時には止んでいた。「Imagine Museum」には、たくさんのガラス作品があり、とても素敵な空間だった。日本人の作品もあって、きれいだった。ガラスの中に植物が入った作品もあり、見る角度を変えると違ったものが見え、1つの作品でたくさん楽しめた。展示の最後に待ち構えていたのは、迫力満点の1000体の仏陀だった。その数の多さに圧倒された。

その後、私が「日本語の教科書を見たいから本屋に行きたい」と言ったので連れて行ってくれた。そこは、古いけれど大きい本屋で日本語の本も何冊かあった。面白い日本語の本があったので買うことにした。日本人でも日常で使わない表現が載っていたり、日本文化としてお笑いを紹介しているページでは、芸人のことが詳しく書かれていたりして面白かった。レジは行列ができていた。今日は午後から市役所見学のため朝から制服を着ていたの、レジのおじさんと軽く挨拶した後、「修学旅行？」と聞かれて姉妹都市から研修に来たと伝えると歓迎してくれた。おすすめのハンバーガー屋さんやアウトレットモールを教えてくれた。10分近くレジのおじさんと話をしたのだが、そのほとんどの英語を理解できたので、少しだけ英語力に自信がついた。カイたちの手を借りずに買い物して、話までもできたことが嬉しかった。本屋さんを後にして、私たちは昼食を食べにメキシカン料理のタコス屋に行った。ビーフのタコス頼んで約300円で安いなと思っていると、量が少なかった。しかし、私が今まで食べたタコスの中で一番美味しかった。市役所見学まで時間があるので、街を散歩した。スターバックスコーヒーがあったので、に入った。念願のアメリカのスターバックスコーヒーに行けてとても嬉しかった。その後、市役所へ。まず、テレビでセント・ピーターズバーグチャンネルを作っている部署を見学した。その後、議会を行う部屋で椅子に座って写真を撮った。高松市よりも議員は少ないようだ。その後、副市長（カイのお母さんのカニカさん）が市長室を案内してくれた。残念ながら市長は出張中でお会いできなかった。市役所の中には、以前に高松から研修生が持参したお土産がたくさん飾られていた。この日はちょうど国際交流委員会の方々の集まりがあったので、そこで2回目のプレゼンテーションをした。あまり緊張しなかったの、ゆっくりスライ



店員さんとの交流



市役所にて

ドに合わせて話すことができた。記念写真を撮影して高松からのお土産を渡して、市役所見学は終了した。この建物は、City hall というのだが、高松市役所よりも遥かに小さい。それは、ほかに City office があって City hall は市長がいるところで、City office はそれ以外のたくさんの部署が入っているところだそうだ。市役所を出ると、今日のために日本国旗を掲揚してくれていた。その後、タイロンショッピングセンターへ。私は、タンパベイ・レイズのグッズを買った。他にも日本でも有名なブランドがたくさん入っていた。中でも、5ドル以下ショップが私のお気に入りだ。お菓子、衣料品や日用品まで揃っているお店だった。

今夜、私たち研修生3人のために、ハロウィーンパーティでおもてなしをしてくれることになった。本来のハロウィーンパーティは、日本と同じ10月31日にするものだが、私たちのために特別に真夏のハロウィーンパーティを開いてくれた。そのハロウィーンパーティにむけてのコスチュームを求めて何軒かお店に寄ったが、いいものが見つからず、オリビアの家で貸してもらった。私は犬、山之内さんは魔女、近藤さんはサメになった。カイの家に移動し、ニアも合流した。ハロウィーンパーティの前に腹ごしらえにピザを食べた。日本のものよりも耳がカリッとしていて硬かった。ピザを食べているとニアが白雪姫のドレスを着てきた。とても似合っていてかわいかった。そして、スーパーマーケットで買ったスイカでジャックオーランタンを作った。くり抜いたスイカの果肉を食べたが、美味しかった。



ハロウィーンパーティでの仮装

ここで、週末のホストファミリーデーにウォルトディズニーワールドに行けることがサプライズ発表された。とても嬉しくて、泣きそうだった。すると、インターホンが鳴って、小さな魔女が訪問してきた。その小さな魔女と私たちと袋を持って近所の家を「Trick or treat.」と言って回った。日本ではこのような経験がなかなかないので、私たちにドアを叩いて「Trick or treat.」を言うのをやらせてくれた。想像以上に楽しかった。家に帰ってから、もらったお菓子を味見した。思ったよりも美味しかった。たくさんお菓子をもらったので日本に帰って配ろうと思った。明日から、カイ一家は親戚の家に行くので私は今夜から4日間、ダイアンさん宅にホームステイすることになっていた。夜の9時頃、ダイアンさんが住んでいるダウンタウンにある高層マンションに到着した。想像以上に大きいマンションで相当見上げないと上まで見えないくらい高かった。そして、ロビーでダイアンさんと初対面。緊張したが、とても優しい方で安心した。部屋に行くまで、少し話をした。ここでも、ダイアンさんが言っていることが理解できて会話は成立していたと思った。ダイアンさんは以前に高松からの歴代親善研修生を4人受け入れたことがあって、高松にも来たことがあるそうだ。高松での話や、過去の研修生の話などたくさん聞かせてもらった。そして、シャワーを浴びようと思ったのだが、またお湯の出し方が分からなかった。Hの文字はあるのだが、そこまで回すと水の勢いが日本での最大より強くて痛い。結局、2度目の水シャワーを浴びた。しかも、このシャワーは私一人しか使っていないので、ちゃんと明日聞こうと思い、眠りについた。

7月27日(金)

ダイアンさんの家では、家族の一員として食べ物を冷蔵庫から自由にとるというスタイルだったので、朝食にダイニングにあったスコーンと冷蔵庫からオレンジジュースを飲んだ。スコーンは、ダイアンさんの手作りで美味しかった。午前中は、「Boyd Hill Nature Park」へ。自然の中を歩いて、タヌキの足跡やリス、池でワニを見た。その後、室内で大きな蜘蛛や蛇を触った。日本ではまず見かけない生き物がたくさんいて興味深かった。解説員の人に疑問に持ったことを英語で質問できたこと

が、嬉しかった。その後、ダウンタウンに戻り散策した。ガラスの彫刻屋さんやアイスクリーム屋さんにも立ち寄った。無料で味見をさせてもらった。そこは、日本とは違うなと思った。街では、ダウンタウン周辺の有名なスポットに置かれている小鳥の置物について教えてもらった。今回は2つしか見つけられなかったが、今度また訪れる機会があれば10個全部見つけてみたいと思う。その後、海のすぐ横にあるセント・ピーターズバーグ歴史博物館へ行った。まず、飛行機の大きな展示があった。そして、迫力満点のギネス世界記録にも



蛇とのふれあい

数の多さで認定されている、野球のサインボール約5000個のコレクションがあった。多すぎて、日本人選手のサインボールを見つけるのも一苦勞。2人くらいしか見つからなかった。後で、パソコン

でどこに何があるか管理しているから調べられるよと教えてもらったので、イチロー選手のサインボールを探してもらった。その後、オリビアは用事があったので、オリビアと同じ研修生のタリンナと寿司屋へ行った。ここでもメニューに写真がないので分からなかったが、日本食なのでどれを頼んでも大丈夫だと思っていると、運ばれてきたのは寿司ではなかった。焼きサーモンだった。サーモン、ライス、サラダと餃子のプレートだった。久しぶりのお米は、日本米とは違っていたが美味しかった。午後からはタリンナも用事があったので、タリン



日本食プレート

ナのお母さんと妹のアヤにタンパにあるアウトレットのモールに連れて行ってもらった。とても大きくて、たくさんのブランドが入っていた。私は、靴を買った。お気に入りが入り、嬉しかった。ディズニーストアでは、ディズニー用のTシャツをタリンナのお母さんに買ってもらった。ディズニーワールドがますます楽しみになってきた。帰宅して、ダイアンさんに日本から持って来たお土産の絹糸と千代紙で作られたふわふわしたボールの置物を渡すと、「こんなの見たことない。とってもきれいね」と喜んでもらえて嬉しかった。夜は時間があったので、去年は研修生がダイアンさんに会っていないので過去の研修生の話の聞いたり、家に飾ってある今までのお土産の話の聞いたり見たりした。シャワーの出し方も聞くことができ、お湯のシャワーを浴びることができた。そして、寝る前にテレビを見たが私には英語が難しかったので、消して眠りについた。

7月28日(土)

朝、9時過ぎに起床した。朝ごはんは、ダイアンさんのお気に入りの近所のパン屋さんで買ってきてくれたクロワッサンだった。その後、タリンナの運転する車に乗って少し離れたビーチへ行った。ザ・ヴィノイ・ルネッサンスホテルが目印の「St. Pete Beach」だ。休日ということで、たくさんの家族連れで賑わっていた。砂浜が白くてきれいだった。水着に着替えて、私たち研修生3人とオリビア、タリンナで肩まで浸かった。水温は思ったより高くぬるかった。浮かんだり歩いたりしながら、明日のディズニーワールドでしたいことを話した。島がないので、水平線が見えていてきれいだった。1時間くらい海に入って、軽くシャワーを浴びて、水着のまま車に乗った。午後からのイベントまで時間があったので、山之内さんとタリンナでアイスクリーム屋さんに行った。私は、ユニコーンのアイスクリームを、山之内さんは日本でも人気のあるロールアイスを食べた。その後、ホストファミリー



ユニコーンアイス

パーマーケットに行った。食料品や衣料品、ちょっとした電気製品やおもちゃまで売っていて、オリビアも好きなお店だと言っていた。メモリーを探した後、食料品売り場を見て回った。ひとつひとつのサイズが大きいけど安い印象だった。調味料やスープ、冷凍食品は日本より遥かに種類が多く見たことないものがいっぱいだった。そして、オリビアの家に帰ってボートで出発した。オリビアの家の庭



メキシコ湾でのクルーズ

は海に面しているの、庭の小さな桟橋から海に出られる。10人は乗れそうな大きなボートで海に出た。住宅街を抜けると、飛ばされそうなくらい速いスピードで一気にメキシコ湾まで出た。まだまだ沈まない空の太陽と海面に映った2つの太陽は輝いていてきれいだった。今朝、海水浴に訪れた「St. Pete Beach」を今度は海から眺めた。砂浜は真っ白できれいだった。ザ・ヴィノイ・ルネッサンスホテルの前で写真を撮って、違う道を通って家に戻った。日本では体験できないであろう初めてのクルーズは、とてもきれいな景色が多く楽しかった。その後、さらにオリビアの家のプールで泳いだ。オリビアの友達は、飛び込みの選手だそうで、実際に庭のプールで飛び込むのも見せてもらった。しばらくプールで遊んだ後、みんなでピザとサラダを食べた。夕暮れ時の空の色は幻想的で、外で食べるご飯は最高だった。その時、オリビアの友達にも私から質問して話していると彼女が、「サラ、あなたフレンドリーね。」と言ってくれた。私は、シャイで自分から話しかけるのが苦手な性格だったのに、気づいたら一緒に話をしていた。英語で話しかけるのも話しかけられるのも全く怖くなくなっていた。とても大きな成長をしていた。次の日が、オリビアのお母さんの誕生日だったのでお祝いをしてケーキも少し分けてもらった。チョコレートが濃厚でとても甘かった。帰りダイアンさんの家まではオリビアが送ってくれた。車の中では、好きなアーティストの話で盛り上がった。オリビアとの会話も続き楽しかった。明日は、待ちに待ったディズニワールド。朝が早いので明日の準備をすべて終わらせてベッドに入った。

7月29日(日)

今日は、あのサプライズの日からずっと楽しみにしていたディズニワールド。朝は家族の誰よりも早く起き、昨日オリビアのお母さんからもらったミッキーマウスのTシャツを着て、家を出た。オリビアファミリーが私をマンションの真下まで迎えに来てくれてディズニワールドへ向かった。高速を使って1時間半程度



おそろいのTシャツ

で到着した。オリビアが、ミニーマウスの耳を貸してくれた。到着する前から、わくわくだった。チケット売り場で、オリビアのお母さんが私たちのために「1st visit」の缶バッジをもらってくれた。ゲートからパークまではフェリーで移動した。入口とシンデレラ城の前で記念撮影をした。その後、ファストパスをとっていたビッグサンダーマウンテンに乗った。日本と大きくは変わらないが、少し違う部分もあって面白かった。その後、タリンナと山之内さんも合流して3つほどアトラクションを楽しんだ。昼ご飯は、プーさんと食事を楽しめるビュッフェへ。食事中にプーさんのキャラクターが回ってきて、一緒に写真を撮ったり、キスしてもらったりした。その後、東京にはないアトラクシ



ウォルトディズニーワールドにて

ョンを探してくれて楽しんだ。すると突然激しい雨が降ってきた。すぐには止まなかった。傘をさして移動しながら何個かアトラクションを楽しんだ。待ち時間は日本より比較的短く、アトラクションは10個以上も乗れた。最後の打ち上げ花火もパークを出るための船の中から楽しんだ。今日は、本場のディズニーで最高の思い出ができた。一生忘れないだろう。そして、今日一日一緒にパークをまわってくれたオリビア、タリンナ、そしてオリビアファミリーには感謝でいっぱい。

7月30日(月)

朝はいつもより遅い時間まで眠れたので、昨日の疲れはとれてすっきり目覚めた。朝ごはんを用意してくれていたメープルのかかったワッフルを食べた。朝ごはんにワッフルを食べるのは初めてだと言うと驚いていた。すると、イギリスでも朝ごはんではなく、デザートに食べることが多いと教えてくれた。その後、家を出るまで時間があつたので、日本からお土産として持ってきていたおい



レインボーカラーの交差点

りや和三盆を紹介した。特においりに興味を持っていて「これは砂糖？」と聞かれたので「これは米からできていてシンプルな味だ」と伝えると驚いていた。その後、フロリダクラフトアートツアーで市内の壁画を見て回った。とてもカラフルなものやパステル調のもの、ゲームの中の世界観を表現したものなど個性豊かで面白かった。私のお気に入りには壁画ではないが、地面がレインボーカラーに塗られている交差点だ。交通量の多い交差点なので夜中の数時間で仕上げたそう。ツアーの後は、オリビアの学校の近くにあるお気に入り

りのファーストフード屋さん連れて行ってってくれた。私はポテトとチキンナゲットを食べた。ポテトは網状で柔らかく、チキンナゲットは日本のマクドナルドのものと似ていて美味しかった。その後、私たちが日本に持って帰るお土産を買いにスーパーマーケットに行きたいと言ったので「TARGET」に連れて行ってもらった。お菓子やスープの素などをたくさん買った。その後、ボーリングに行った。日本と全く変わらなかったが、とても楽しかった。おなかがすいたので、おやつにシェイクを飲み、ハンバーガー屋さんに行った。20センチくらいの高さのコップに入っているものもあったが、全部飲みそうになかったので、小さめのバニラ味にした。バニラの発音が難しく伝わりにくかったので、まだまだ発音に弱いなと痛感した。その後、「Walmart」という端っこから端っこの壁が見えないくらい大きなスーパーに連れて行ってもらった。ここでは、私は何にかけてもおいしい粉と書かれてあったものを買った。オリビアに、「それ何？」と笑われた。地元の人もあまり使わないらしい。今日、

カイ一家が帰ってきたので、ダイアンさんの家から再びカイの家に帰ることになっていた。夕方にスーツケースを取りにダイアンさんの家に行って、感謝を伝えた。4日間と短い間だったけれど、ダイアンさんとは日本のことなどについてとても有意義な会話ができて、楽しかった。そして、「またいつでも戻ってきていいわよ」と言ってくれた時に、ダイアンさんの家にホームステイできてよかったなと心から思った。ハグをして、マンションを後にした。いろいろ手伝ってくれたマンションの管理人さんともさよならをした。その後、晩御飯にベトナム料理屋さんに行った。メニューには、ベトナム料理以外にもアジアの料理があり、うどんもあったが、カイに「日本のとは違うからショックを受けるからやめといたほうがいい」と言われたので、ポークライスにした。注文するときカイが店員さんに高松から親善研修生として来ていると紹介してくれて、「何が楽しかった？楽しんでね」と言ってくれた。ポークライスはお箸で食べた。金属の箸で少し重くて使いにくかったが、ご飯はとても美味しかった。帰る途中に、スーパーマーケットによって明日、ニアと二人で家で行う映画鑑賞のために、おやつやピザなどの食料を買った。明日は、いよいよラストのイベントの送別会だ。けん玉を披露する予定なので、寝る前に少し練習をして眠りについた。



ポテトとチキンナゲット

7月31日(火)

今日から、カイは用事があってロサンゼルスへと出発した。朝起きて、洗面所に行くと私のこの世で一番苦手なゴキブリが出た。私はパニックだったが、ニアに言うと全く動じずトイレットペーパーでくるんでトイレに流していた。その後、朝ごはんはシナモンロールを食べた。午前中



「The Florida Aquarium」の様子

はニアとクラシックな恋愛映画を鑑賞したが、私は睡眠におそわれあまり内容が頭に入ってこなかった。途中でニアの友達 came。ニアと友達に日本からのお土産を渡した。喜んでくれていたみたいで嬉しかった。特に、照り焼き味のうまい棒を気に入ったみたいだった。午後からは、オリビアファミリーが私と近藤さんをタンパにある水族館の「The Florida Aquarium」に連れていってくれた。見たことないのマングローブの魚なども展示していた。水槽の壁も日本より低かったり、鳥が放し飼いだったり、動物との距離が近かった。

イルカやアザラシなどの哺乳類があまりおらず、サメやマングローブに生息していて、フロリダでしか見られない変わった魚など多かった。初めてイソギンチャクやエイに触り、楽しかった。その後、送別会のため市内に戻った。まず、私たちのプレゼンテーションをして、その後ロシアの踊りやスコットランドの歌を見た。とてもかわいかった。ディナーには多国籍料理を楽しんだ。ロシアのソーセージやハワイのマラサダに似ているドーナツが美味しかった。他に日本のから揚げなどもあった。送別会には、SPIFFSの関係者の方々のほかにも私たちのホストファミリー、カイたちの日本語の先生であるテイラーさん一家などたくさんの方々がいらっしゃって大人数で楽しかった。そして、たくさんの方々にプレゼンテーションを褒めてもらい、とてもとても嬉しかった。おそらく SPIFFS の関係者であろうおじいさんともお話ができた。以前に、高松に来たことが



お世話になったホストマザー

あるそうで、その時の話をした。おじいさんも私の英語を理解してくれて、私もおじいさんの言っていることが分かったので、とてもお話していて楽しかった。帰りの車の中ではホストマザーと話をした。こちらに来てすぐはホストマザーの言っていることが聞き取れず、カイを介して話していたのだが、1対1で話せるようになっていた。そこで、ホストマザーからびっくりすることを教えてもらった。今、カイがロサンゼルスに行っているのは映画を作るためだそうで、親戚に俳優さんがいる関係で映画関係の仕事に携わっている

るそうだ。将来、俳優になったカイを見る日が来るかもねと笑顔で話していた。今回撮影している映画にも出演するそうで、夢に一步步近づいているカイをみて、私も頑張ろうと励まされた。明日は、3時半起きだ。夜、荷造りをしていると、雷が鳴りだして怖かった。フロリダの空は常にどこかに入道雲があって、ほぼ毎日雷が鳴る。私は入道雲を見るのは好きなのだが、雷は大の苦手。一人で怯えながら荷造りをして眠りについた。

8月1日(水)

3時半に起きると言っていたのだが、ホストマザーの声で目覚めたのは3時50分だった。4時半に空港集合なのに遅刻だと思い、大急ぎで準備した。家を出たのが4時を過ぎていたが、早朝のせい公道がすいていて、何とか4時半過ぎに空港に着くことができた。各ホストファミリーに感謝を述べ、別れた。まだまだ、帰りたくないと思うと同時に、早く帰ってアメリカでの出来事をたくさん話したいという気持ちでいっぱいだった。だが、これから日本の家に到着するのは30時間後だ。

8月2日(木)

長旅の末、やっと高松空港に到着した。久しぶりの高松は暑かった。帰りの車の中ではアメリカでの話をずっと一人でしゃべっていた。まだまだ、話し足りない。これから数日、私の口はアメリカの話でいっぱいふさがらないだろう。

感想文



高松第一高等学校 2年
瀧川 沙楽

感謝

私はアメリカでの10日間、常に感謝という言葉が頭にあった。そして、今までにないくらいたくさんの方に感謝をし、「Thank you.」という言葉は何度も何度も使ったように思う。気候も文化も違って、日本での日常とはかけ離れた環境の中では、不便なことや苦労することも多々あった。そのたび、日々何気なく過ごしている日常に感謝し、日本の素晴らしさを感じる場面もあった。

レストランで料理が運ばれてきた時、店員さんの目を見ながら、声を出して「ありがとうございます。」と感謝を伝える日本人は少ないと思う。実際、私もそうだからだ。しかし、ホストファミリーが「Thank you very much.」と伝えているのを見て驚いた。他にも、ほとんどの日本人が会釈で終わらせてしまうようなことも、彼らはきちんと声を出して伝える。そういった場面ではきちんと声を出して感謝を伝えるアメリカ人の意識は素晴らしいと思った。だが、日本人は食べる前に「いただきます」と言うが、アメリカではそのような文化はない。毎回「いただきます」と言ってからご飯を食べていた私を見て、その言葉はどのような意味かと聞かれたので、作ってくれた人や生き物への感謝と言うと感心していた。無意識に言っていたが、言わないと何か足りない、「いただきます」の意味を再確認出来て、日本人の感謝の意識も素晴らしいものだと思った。

他にもいろいろな場面で文化の違いを実感し、日本人のいいところを再発見できたと同時に、アメリカ人の素晴らしいところもたくさん見つけられた。自分の持っていた偏りのある考え方をやめて、どちらにも違ったいいところがあり、どちらも受け入れることができるようになった。視野も広がり、自分自身の成長も感じ嬉しかった。私は、もともと少し恥ずかしがり屋な性格で、自分から積極的に英語で話しかけるのが苦手だった。しかし、現地の方々は私の英語を理解してくれようとしてくれたり、分かりやすく話してくださったりして、英語での会話が成立することもたくさんあった。街では、日本に興味のある方が多くて、レジの店員さんと10分程度お話ししたり、私が姉妹都市からの研修生と知るとたくさんの方が歓迎の言葉をかけてくださったり、「日本に行ったことがあるが、素晴らしい国だった。」「日本へは行ったことないけど、とてもいい国と聞いたからぜひ行ってみよう。」と喜んでくださる方もいて、日本、日本人であることに誇りを持った瞬間だった。

今回、形としては見えないものも含めたくさんの方のことを経験し、高松に持ち帰って来た。だから私は、学んだことを発信し、少しでも多くの方の国際交流への意識が変わるよう、貢献したい。また、小さなことからだが、道に迷っている外国の方に声を掛け、外国の方から高松はいい街だと思ってもらえるよう努めたい。最後に、この充実した10日間をアメリカで経験できたのは研修生の二人、引率の先生、私の意志を尊重してくれた家族や学校の先生、そして協会の方々などたくさんの方のおかげであり、感謝をしてもしきれない。

本当にありがとうございました。

親善研修生 報告書 III

日誌・活動記録

香川県立高松西高等学校 2年 山之内 萌

7月23日(月)

いつもだったら眠くて起きられない時間だが、楽しみの気持ちが強くて、目覚ましが鳴ってすぐに目が覚めた。高松空港に1番に着き、みんなに会った時には、本当に渡米するんだという実感が湧いてきた。初めてのパスポート、初めての海外。とてもわくわくした気持ちと、上手くコミュニケーションが取れるかという不安が入り混じっていた。1人1人簡単に意気込みを述べて、写真撮影を行い、母、姉、見送ってくださる方々に「行ってきます。」と別れた。羽田空港からシカゴ空港まで約13時間のフライトである。こんなに長時間のフライトは初めてだ。飛行機内では、映画を観たり音楽を聴いたり、景色を楽しんだりした。機内食は1食目がカレーライス、2食目がパンケーキとポーチドエッグだった。どちらも機内食とは思えないくらい美味しかった。シカゴ空港に着いてからはみんな長時間のフライトで疲れていたため、ベンチで仮眠を取った。



出発前の高松空港にて

だが、エアコンが効きすぎて肌寒く感じた。タンパ空港までの飛行機の中は日本人がほとんどいなかった。そこでも仮眠を取り、気がついた時には着陸態勢に入っていた。タンパ空港には、ホストファミリーやロッタさん率いる SPIFFS (セント・ピーターズバーグ国際民族会) の方々が、大きな歓迎用のポスターを持って出迎えてくれた。私のホストファミリーはファレン一家。セント・ピーターズバーグ市親善研修生のタリンナの顔を見たときには安心した。タリンナのおじさんの運転で、ホストマザーのロナリンとタリンナ、タリンナの妹のアヤと約30分かけてセント・ピーターズバーグ市内にあるファレン家まで移動した。移動中の車内では窓から見える海の説明をしてくれた。日本の海と比べて、かなり水の量が多くて溢れそうな程だった。家に着くと、タリンナとアヤが私のスーツケースを車から運んでくれた。タリンナが普段使用している部屋を「ここを自由に使っていていいよ」と貸してくれた。荷物を置いて、すぐにロナリンが夕食の準備をしてくれた。夕食を待っている間、タリンナ



残ったアイス

の祖母のローラと、タリンナのいとこのハンターと挨拶を交わした。ローラとタリンナの祖父のバシリオはスパニッシュらしい。夕食は白米とサーモンだった。日本米より縦長で、パサパサした食感だった。サーモンは大きくて家庭的な味で美味しかった。夕食後、タリンナが運転する車でアヤ、ハンター、私の4人で近所のアイスクリーム屋へ行った。私が注文したチョコレートアイスは濃厚で美味しかった。食べていると、タリンナのボーイフレンドのジェームズが来た。5人で日本のアニメの事について話をした。「ONE PIECE」「ポケットモンスター」の事を知っていてとてもかっこいいと言っていた。他にも、私が知らないアニメを知っていて、日本人として誇らしくなった。アイスクリームは量が多くて全て食べることができなかったのが悔しい。家に帰って部屋を暗くして「もののけ姫」を観た。もちろん全て英語で頑張って理解しようとしたが、厳しかった。途

中で眠たくなったので「先にシャワーを浴びてもいい？」と聞くと「もちろん」と言ってくれたので、シャワーを浴びて翌日の準備をして、「おやすみ」を言った。

7月24日(火)

朝、わくわくして5時半に目が覚めた。リビングの方に出て行っただが、さすがに早すぎるのか誰も起きていなかったの、部屋に戻った。ベッドで一人していると母から電話がかかってきた。「楽しい？」や「タリナナの家族はどんな感じ？」と聞かれたので、昨日から今までのことを全て話した。7時頃になったのでリビングに行き、ホストファミリーに自分から笑顔で挨拶をすることができた。ロナリンが朝食にパン、ベーコン、イチゴ、バナナを準備してくれていた。パンにはロナリンのおすすめの「ヌテラ」というチョコレートクリームを塗って食べた。甘くて美味しかった。9時半に家を出発し、タリナナの運転で商工会議所へ向かった。しかしタリナナの勘違いで市役所に行ってしまい、5分程遅れて商工会議所に到着。遅れて怒られるかと思ったが、商工会議所のみなさんは温かく迎えてくれた。その時私はアメリカ人の心は広いなと感じた。



商工会議所の皆さんと

そして、セント・ピーターズバーグ市での初めてのプレゼンテーション。高松市を詳しく知ってもらうためのプレゼンテーションだ。私はお遍路、近藤さんは丸亀町商店街、瀧川さんは屋島について発表した。真剣なまなざしで皆さんが聞いてくれたので、機械の操作に手こずりながらも、よりよく伝えられるように3人で協力し合って発表した。発表後、タリナナが「良かったよ。」と言ってくれて嬉しかった。現地連絡員のプランタムラさんは、「もう少し相手の目を見て、写真を指しながらの方が伝わりやすいよ。」とアドバイスをくれた。セント・ピーターズバーグ市の商工会議所で気付いたことは、明るい雰囲気でもとてもラフな場所であるということだ。1人1人が自分の意見をしっかり言い合い、楽しそうに働いていた。商工会議所を後にし、「The Hangar Restaurant」という、真横に小型の飛行機が離着陸する店で、「チキン&ワッフル」を食べた。ワッフルの上にチキンがのっけていて、その上からメープルシロップをかけたものだ。メープルシロップの甘い味がほんのりして、日本にはない味で美味しかった。手作りのおもちゃの飛行機を外で飛ばして遊んだ。その後はダリ美術館に向かった。プランタムラさんが丁寧に1つ1つ説明してくださり、



パドルボート

ダリの人生は決して平らな道ではなく、たくさんの困難を乗り越えたからこそ、素晴らしい作品を残すことができたのだと感じた。その後、高松市とセント・ピーターズバーグ市、両市の研修生6人で、その研修生のうちの1人であるカイのおじさんの家でハンバーガーを食べ、パドルボートを体験。ハンバーガーは肉々しく、ジューシーで美味しかった。パドルボートには、まず、タリナナと2人で乗った。パドルボートを初めて体験して、バランスを取ることが必要だと感じた。次にカイの後ろに乗っていると、パドルがひっくり返って2人で海に落ちた。プールにも入り、カイの素晴らしい泳ぎを見た。みんなで競争をして、たくさん笑った。その後、タリナナと翌日の野球観戦のためにタンパベイ・レイズのTシャツをショッピングモールに買いに行った。夕方からは、「St. Pete Beach」にサンセットを見に行っただ。日本と違って、砂浜が白く、

驚くほど広かった。みんなでジャンプして写真を撮ったり、ハーゲンダッツを食べたり良い思い出となった。帰宅後、シャワーを浴び、すぐに眠りについた。

7月25日(水)

朝起きて、リビングに行くとタリナが「今から、ドーナツを食べに行こう。」と言ってきたので、着替えて車に乗った。車で5分程の「DONKIN' DONUTS」に行った。私はチョコレートとストロベリー

のドーナツを食べた。日本のミスタードーナツと似ているだろうと思ったが、食べてみると想像以上に甘かった。午後からは、タンパベイ・レイズの野球観戦だ。昨日、タリナからプレゼントしてもらったTシャツを着て、SPIFFSの駐車場に集合した。そこで、みんなを待っている間、日本では日常的に見ることのない鳥やリスが当たり前前に道にいて、思わず写真を撮った。タンパベイ・レイズのホーム球場であるトロピカーナ・フィールドのVIPルームで野球観戦をした。その日の試合は、タンパベイ・レイズ対ニューヨーク・ヤンキース。前日に、ニューヨーク・ヤンキースの田中将大投手が登板していたらしく、その日はベンチにいる様子をモニターで見ることができた。私は、タリナ、カイ、セント・ピーターズバーグ市研修生のオリ



トロピカーナ・フィールドにて

ビアの日本語教師テイラーさんの娘であるスカーレットと野球観戦を共にした。スカーレットは5歳の女の子。一緒に写真を撮ったり、お絵かきをすることで、言葉を交わさなくても、楽しい時間を過ごすことができ、仲良くなれて嬉しかった。6回の後、球場のモニターに、私たち研修生の名前と映像を映してくれたときは、とても驚いた。このような経験は、もう出来ないだろうと思うほど興奮した。見事に、タンパベイ・レイズの勝利で試合終了。

「Sundial」というスーパーに行って、ハンバーガーとフライドポテトを買った。遅めの昼食中に、カイ、オリビアと一緒にお互いの学校生活のことを話して盛り上がった。その後、オリビアの家に行き、オリビアの家族と一緒に釣りをした。魚の餌のエビをみんなが、「TEMPURA」と言っていて、面白かった。私は、ナマズを釣った。ナマズは、髭が猫に似ているので、キャットフィッシュと言うらしい。



ナマズを釣る様子

その後もナマズを3匹ほど釣りあげた。人生初の釣りは良い経験になった。その後、「Cobb」という映画館に行って、「マンマミーア2」を観た。日本の映画館と異なり、映画館の椅子がリクライニング式で、座り心地が良かった。映画は全て英語だったので、映像や歌、ダンスを観て楽しんだ。いつか、映画から聞こえてくる英語を全て理解できるようになりたいと強く思った。約2時間程の映画が終わり、それぞれに帰宅した。



映画館「Cobb」

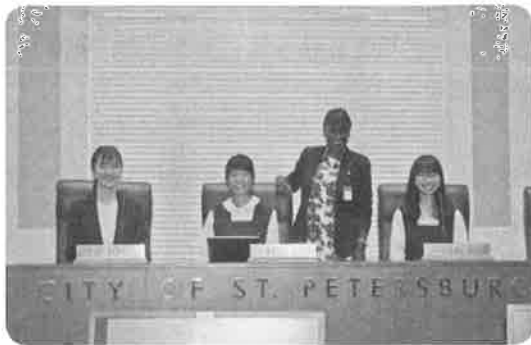
7月26日(木)

今日は「Imagine Museum」へ行った。綺麗なガラスの作品を鑑賞した。特に、ガラスの椅子を見た時は本当に座ってみたいと思った。色とりどりで繊細なガラス作品がたくさんあった。その後、現地では有名な本屋に行った。日本の本屋より古本屋という感じがしてオシャレだった。私たち研修生は日本語の本を探して読んでみた。すると、おかしな日本語が書かれていて面白かった。例えば、「おっは一」「あばよ」など、日本人でもあまり使わない日本語が多く載っていた。一体どこでその日本語を知ったのかという言葉もたくさんあった。日本に売られている英語の本も、アメリカ人から見ると違和感があるのだろうか疑問に思った。私がしおりを買いにレジへ並ぶと、店員のおじさんがセント・ピーターズバーグ市の観光地について地図を使って教えてくれた。アメリカには、親切でフレンドリーな人がたくさんいると感じた。その後、昼食にみんなでタコスを食べた。日本ではタコスと言うが、アメリカではタコと言うそうだ。タコは約4ドルでお手頃だった。私は鶏肉が入ったタコを食べた。さっぱりした野菜と、しっかり味が付いているチキンが入っていて



ガラスで作られた椅子

美味しかった。私はオリビアが飲んでいたジュースが気になって「このジュースは何？」と聞くと、「レモネードだよ」と教えてくれた。私も飲んでみると爽やかな炭酸で、ピンク色をしていて可愛かったので好きになった。お腹がいっぱいになったところで市役所へ向かった。市役所の中に入るまで時間があつたので、オリビアとカイがセント・ピーターズバーグの街を歩いて案内してくれた。スターバックスや郵便局に行った。市役所には高松市からのお土産が飾られてあつた。兜や日本人野球選手のサインボールなどたくさんのもがガラスのショーケースに入っていて、大切に保管されていた。アメリ



市役所の議長席

カにきて2回目のプレゼンテーションは、前回よりも聞き手の目を見ることを意識して発表した。私はお遍路について紹介した。高松で作成したパワーポイントを見せながら紹介文を読んだ。市役所の皆さんが真剣に聞いてくれたので私も少しでも日本、高松の良さが伝わるようにと願った。私たち研修生3人が発表している間、皆さんは笑顔で相槌を打ちながら聞いてくれた。感想を聞いてみると、「素晴らしかった。ありがとう。」と言ってくれて、嬉しかった。議会を開く部屋を見学し、私は真ん中の議長席に座って写真を撮った。

市役所の外には、アメリカ国旗、セント・ピーターズバーグ市旗の下に日本国旗が揚げられていて嬉しかった。

それから、カイの家でハロウィンパーティー。ハロウィンの季節は本来10月だが、タリンナ、カイ、オリビアが私たち研修生のために、おもてなしの心と少しでも楽しませてあげようという気持ちでハロウィンパーティーを計画してくれていた。オリビアに借りたコスチュームで私は魔女に仮装した。日本にはないような大きいサイズのピザを食べた。味が濃くてチーズもたっぷり美味しかった。私達3人とタリンナ、カイ、



ハロウィンパーティー

オリビア、カイの妹、近所の子もたちで近所の家を「トリック オア トリート」と言いながら歩いて回った。本場のハロウィーンパーティは、かなり広範囲の家を巻き込んでいた。これは現地ではできない貴重な体験だった。訪ねた家の方々は、たくさんのお菓子をバッグに入れてくれた。カイの家では、ジャックオランタンを作った。カボチャの季節ではなかったので、スイカの中をくりぬいて作った。みんながくりぬいたスイカを食べていた時、タリンナ、カイ、オリビアが私達3人に白い封筒を渡してきた。私達は揃って中を見た。そこには「Disney」と書かれていた。私達は興奮と驚きで叫んだ。タリンナ、カイ、オリビアがサプライズで、明後日のホストファミリーデーにディズニーワールドに行くことを計画してくれていた。たまらなく嬉しくて心の底から感謝の気持ちでいっぱいだった。

7月27日(金)

今日は「Boyd Hill Nature Park」という自然公園に行った。暑い中、木々が生い茂っているところをみんなで歩いた。歩いていると池の中に小さなワニが見えた。ワニを直接見るのは初めてで、目が鋭くて怖かった。フクロウも5種類ぐらいいて、近くで観察することができた。屋内の施設では、蜘蛛や蛇に直接接触の体験ができた。私は恐ろしくて触らなかったが、近藤さんと滝川さんは積極的に触っていた。見たことがない太いオレンジ色の蛇を抱いて、近藤さんが嬉しそうに笑っていた。他にもワニの骨があったり、毒ガエルがいたり、たくさん生き物に触れ合うことができた。「Boyd Hill Nature Park」を出て、セント・ピーターズバーグ歴史博物館へ向かった。ギネス世界記録に認定されている野球ボールコレクションを見た。イチロー選手など日本人野球選手のサインボールを探して楽しんだ。他にもミイラが展示されていたり、昔の飛行機にライト兄弟の人形を乗せて天井からつるされたりしていた。ここでは多くの歴史を学ぶことができた。それからタリンナと私達の4人で「レモングラス」というタリンナ行きつけの寿司屋に行った。私はサーモンチーズロールとウナギ巻きと味噌汁を注文した。日本の寿司屋では食べることがない濃い味で、新鮮で美味しかった。食べ終わると、タリンナの母、ロナリンが迎えに来てくれて、私達3人とアヤ、ロナリンの5人でタンパにあるアウトレットモールへ向かった。日本のアウトレットモールと同じようなものを想像していたが、それを遥かに超える広さで驚いた。小腹が空いたので、



「レモングラス」にて



タリンナの友達と寿司作り

フードコートでホットドッグとフライドポテトを食べた。やはりどこに行っても食べ物はビッグサイズだった。買い物をしていて気付いたことがある。私は欲しい物でも長時間かけて悩んだり、店員さんに勧められたものだけを見て買ってしまったりするときがある。だが、アヤとロナリンの買い物を見ると、自分が欲しいと思ったらすぐに買い、長時間かけて悩むことはなかった。優柔不断な私からすると、とても見習いたい部分である。自分の意志を強く持つことが何事にも大切であると感じた。その後、買い物を終え、家に帰り、タリンナの友達7人程と手巻き寿司づくりをした。私にたくさん聞いてくれて答え方に困った時もあったが、ジェスチャーや実際にやって見せてコミュニケーションを取った。少しご飯が粘ついてしまい、日本で食べるようなきれいな寿司にはならなかった。次にみんなで作る時はもっと言葉で説明してもっと美味しいと思ってもらえるようにしたい。日本文化を少

しでも知ってもらえて嬉しかった。

7月28日(土)

今日の朝食は、カップケーキだった。ピンク色の大きいカップケーキで、周りに砂糖が散りばめられており、とても甘かった。朝食後、タリンナ、オリビア、近藤さん、滝川さんと私の女子5人でメキシコ湾のビーチへ行った。水着に着替え、日焼け止めを体中に塗り、海に飛び込んだ。沖からかなり離れた所まで歩いて行ったが、日本の海のように深くなく、足をつけて余裕で立つことができるくらい浅かった。「クラゲに刺されないように、水中はすり足で歩くべきだよ。」と言われ、すり足で歩くことを心がけた。水温も冷たすぎず、過ごしやすい温度であった。ビーチには、朝早い時間でも水着姿の人がたくさんいて、日本人の私から見ると慣れない景色だった。その後、水着のまま車に乗り、BBQ & Pool Party が行われる「The Hollander Hotel」へ向かった。その途中、タリンナの



メキシコ湾のビーチ

友達のThien が働いているアイスクリーム屋へ連れて行ってしてくれた。そこで私は、ベリーメリーベリーというアイスクリームを注文した。それは、ロールアイスで、冷たい鉄板の上でThien が作ってくれて、好きな物をトッピングして食べた。私はチョコレートにトッピングした。食べたことがない形のアイ



ロールアイス

スクリームで冷たくて美味しかった。「The Hollander Hotel」では、プールに入ったり、ハンバーガーを自分で作って食べたりした。やっぱり何回食べてもアメリカのハンバーガーの肉は肉々しくとっても美味しく、大好きだと感じた。SPIFFS のロッタさんの知り合いの方々が次々に来て、みなさんに挨拶することができて良かった。中には、日本語を話すことが出来る人もいた。パーティーが終わってからは、オリビア家に行ってクルーズを体験した。初めてのクルーザーで、海の潮風を肌

で感じて、気持ちよかった。クルーザーからは、イルカが見えた。1時間程クルーズした後、オリビア家のプールで遊んだ。オリビア家のプールは私の学校のプールより深かった。オリビアの友達で、飛び込みの選手であるソフィーの飛び込み姿を目の前で見た。私もハンドボールをしているので、同じスポーツをしている人として、とてもかっこよく見えた。ソフィーに飛び込み方を教えてもらったり、オリビアの弟のルークにサッカーのヘディングを教えてもらったりしながら、スポーツを通してコミュニケーションを取ることができた。プールを出てからは、外のベンチでみんなでピザを食べた。こんなに海やプールに何度も入ったのは初めてだったので、タリンナの家に戻ってからシャワーに入り、すぐに眠りに就いた。



クルーズにて

7月29日(日)

ついに今日は、ウォルトディズニーワールドへ行く日だ。私は東京ディズニーランドにも行ったこと

がなかったので、この日が初ディズニーとなる。そのため、とても興奮していた。タリンナの家から、オーランドにあるウォルトディズニーワールドまでは2時間程かかる。8時に家を出発し、途中、スターバックスに寄って、10時頃に到着した。乗りたい乗り物に早く乗ることができるファストパスのカードをもらった。私達はモノレールに乗って、5つぐらいパークがある中の「マジックキングダム」というパークに行った。そこから、たくさんのアトラクションを体験した。私が特に印象に残っているのは、「スペースマウンテン」である。ジェット



シンデレラ城の前で

コースターに乗って、真っ暗な中を走った。大きな声で叫び、もう一度乗りたいと思うほど楽しかった。昼食は、プーさんがいるレストランに行った。バイキング形式で、好きなものを取って食べた。オリビアが好きと言っていたチーズマカロニを私も試してみると、チーズの味が濃厚で美味しかった。食事を



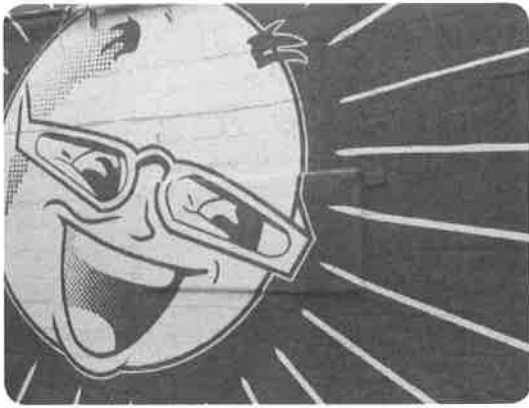
プーさん

していると、私達がいるテーブルにプーさん、ピグレット、イーヨーが順番に来てくれて、写真を撮ったり、ハグを交わしたりした。プーさんも、ピグレットもイーヨーも絵本の中から出てきたように可愛かった。そして、この日は、オリビアのお母さんの誕生日だったので、バースデーケーキをテーブルまで持ってきてくれた。そこで、みんなでバースデーソングを歌ってお祝いした。外は短時間で強く降る雨が繰り返し降っていた。傘を持っていなかった私たちに、オリビアのお父さんが合羽を買って渡してくれたので、それを着た。「トイストーリー」、「プー

さん」、「アリエル」、「ピーターパン」などたくさんのアトラクションに乗ることができた。アリエルは、私が小さいころ好きだったプリンセスなので、とても可愛くて、また更に好きになった。アトラクションだけではなく、ショーも見た。1つ1つ丁寧に作られていて、本当に命が宿っているのではないかと思うほどだった。オリビアとタリンナは「今から乗るアトラクションは、日本にある？」と何度も聞いてくれ、東京ディズニーランドに行ったことがある近藤さんと滝川さんが「あるよ。」と答えるととても残念がっていた。オリビアとタリンナはここでしか体験できないことを私達にさせようと思ってきていたのである。私には、その2人の気持ちがとても嬉しかった。アメリカの歴史を紹介する動画を見ることができるところにも入った。そこでは、歴代の大統領の等身大の人形がずらりと並んでおり、1人1人名前を言ってお辞儀をする動きをしていた。オバマ大統領の名前が呼ばれた時、アメリカ人のお客さんのほとんどが手を叩いて拍手をした。その時、アメリカ人は自国への愛が強い人々だなと感じた。それと同時に、そこまでたくさんの人に拍手されるオバマ大統領のことをもっと深く知りたいと思い、私も多くの人に愛される人になりたいと思った。最後に見たシンデレラ城の花火ショーはとても綺麗で迫力があり、感動した。花火ショーが終わると、シンデレラ城にはプロジェクションマッピングが用いられていた。そこにいるすべての人が、歓声を上げて拍手をしていた。本当に夢のような1日だった。私たちのことを1番に思って計画してくれたみんなには感謝の気持ちでいっぱいだ。

7月30日(月)

今日は朝から市街壁画ツアーだ。オリビアは友達のエドワードを連れてきた。去年のセント・ピーターズバーグ市の研修生の1人であるザックも、ガールフレンドのジェシカと一緒に来ており、挨拶



壁画ツアー

ト・ピーターズバーグ市出身のアーティストのCDジャケットと同じだった。太陽には、顔がついていて、まるで明るい笑顔でこのセント・ピーターズバーグ市を照らしてくれているようだった。サンシャインシティと呼ばれるセント・ピーターズバーグ市のイメージにぴったり合っているイラストだと思った。他には、セント・ピーターズバーグ市で有名な「You are my sunshine」と書かれた壁画の前で写真を撮った。壁だけではなく、車が通る道路もカラフルにデザインされていた。昼食は、ジョーダン、タリナ、オリビア、私達研修生の3人の計6人で、アメリカで最も有名だというハンバーガーショップの「Chick-fil-A」に行った。私はチキンバーガーを食べた。みんなで食べていると、タリナの手が止まった。「どうしたの？」と聞くと、学校の先生が来たらしい。その男性の先生のことを車の中で詳しく聞くと、「歴史の先生でとてもこわい先生だよ。でも、とても分かりやすく教えてくれる良い先生でもあるよ。」と言っていた。どこの学校にも、生徒のことを思って、時に厳しく指導して下さる先生はいるのだなと思った。それから、「TARGET」という大型スーパーマーケットに行った。私は、友達や家族、親戚にお土産をたくさん買った。そのスーパーの1番大きなカートを使うほどだった。タリナに、「私の友達へのお土産で何かお勧めのものはある？」と聞いてみると、「分からない。」と言われた。アメリカには、日本のようにたくさんのお土産を配る習慣がないらしい。だから私は、お菓子コーナーに行って、チョコチップクッキーやガム、ビスケット、チョコレートなど、なるべく日本にないアメリカらしいものを選んだ。最終的に、カートがいっぱいになる程だったので、タリナが驚いていた。その後、カイも合流して、ボーリングをした。私は小学生



“You are my sunshine”



みんなでボーリング

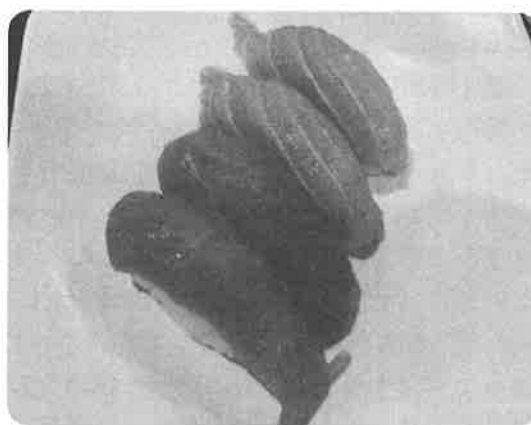
を交わした。外を歩きながら、壁画を見て回る。壁画を1つ1つ説明してくれるガイドさんも一緒だ。10分ほど歩いていると、雨が降ってきた。屋根がついている駐車場で、しばらく雨宿りをした。そこで引率の久保先生に昨日のディズニーワールドの話をした。昨日の話をしているだけで、楽しく、昨日に戻りたい気分にもなった。久保先生は、ホストファミリーの方々と教会に行ったそうだ。雨が弱まったところで壁画ツアーを再開した。特に印象に残っている壁画は、青色のブロック壁に黄色の太陽が描かれているものだ。それは、タリナが高松に来た時に、プレゼントしてくれたセン

ト・ピーターズバーグ市出身のアーティストのCDジャケットと同じだった。太陽には、顔がついていて、まるで明るい笑顔でこのセント・ピーターズバーグ市を照らしてくれているようだった。サンシャインシティと呼ばれるセント・ピーターズバーグ市のイメージにぴったり合っているイラストだと思った。他には、セント・ピーターズバーグ市で有名な「You are my sunshine」と書かれた壁画の前で写真を撮った。壁だけではなく、車が通る道路もカラフルにデザインされていた。昼食は、ジョーダン、タリナ、オリビア、私達研修生の3人の計6人で、アメリカで最も有名だというハンバーガーショップの「Chick-fil-A」に行った。私はチキンバーガーを食べた。みんなで食べていると、タリナの手が止まった。「どうしたの？」と聞くと、学校の先生が来たらしい。その男性の先生のことを車の中で詳しく聞くと、「歴史の先生でとてもこわい先生だよ。でも、とても分かりやすく教えてくれる良い先生でもあるよ。」と言っていた。どこの学校にも、生徒のことを思って、時に厳しく指導して下さる先生はいるのだなと思った。それから、「TARGET」という大型スーパーマーケットに行った。私は、友達や家族、親戚にお土産をたくさん買った。そのスーパーの1番大きなカートを使うほどだった。タリナに、「私の友達へのお土産で何かお勧めのものはある？」と聞いてみると、「分からない。」と言われた。アメリカには、日本のようにたくさんのお土産を配る習慣がないらしい。だから私は、お菓子コーナーに行って、チョコチップクッキーやガム、ビスケット、チョコレートなど、なるべく日本にないアメリカらしいものを選んだ。最終的に、カートがいっぱいになる程だったので、タリナが驚いていた。その後、カイも合流して、ボーリングをした。私は小学生のときから、ボーリングをしておらず、不安だったがストライクが3回出て楽しかった。しかし、オリビアに点数で負けてしまい悔しかった。そこから、「Steak' n Shake」というハンバーガーショップに行って、ミルクシェイクを飲んだ。甘さが強くて、とても美味しかった。それからは足りないお土産を買いに「Walmart」というスーパーマーケットへ向かった。私はスパゲッティやマカロニなどいろいろなものを買った。帰宅して、しばらくゆっくりして、7時頃にファレン一家揃ってタンパにある中華料理屋へ連れて行ってってくれた。酢豚やチャーハン、ラーメンなどが回る丸いテーブルに並んでいて、

好きな物を取って食べた。家に帰ってからは、アヤと一緒に私が日本から持ってきた折り紙と一緒に折って遊んだ。手裏剣や籠を折ってあげると喜んでくれた。アヤは犬を折って私にくれた。日本文化を少しでも自分の手で伝えることができ嬉しかった。

7月31日(火)

朝起きてリビングに行くと、ロナリンが「今日は最終日だね。何がしたい？」と聞いてくれた。私はスポーツがしたかったので「ハンドボールかバッティングセンターに行きたい」と言った。だが、アメリカではハンドボールがあまりメジャーではなく、バッティングセンターの開店時間が遅かったのでスポーツは断念した。でも私のしたいことを最優先してくれる気持ちに感謝した。11時ごろに家を出発し、バシリオ、ローラ、アヤ、ロナリン、私の5人でタイローンスクエアというショッピングモールへ向かった。タリンナは友達と遊びに出掛けてしまったので一緒に来る事が出来なかった。そこで、ロナリンが私の家族へのお土産をたくさんプレゼントしてくれた。私の父にはTシャツ、母にはトートバッグ、姉には香水、私にはサングラスを選んでくれた。さらにタリンナが高松に来た時のホストシスターのあみちゃんへのお土産も買い、「これをあみに渡してくれる？」と言われたので「いいよ。」と言った。実際、私が高松に帰ってからあみちゃんに渡すと、喜んでいて、タイローンスクエアを出て、一度帰ってからロナリンと2人で「SAKI」という寿司屋へ向かった。そこには日本の寿司職人がいて話しかけたかったが、忙しそうだったので出来なかった。私はマグロとサーモンの握り寿司とみそ汁を注文した。注文を待っている間、「あなたは最終日にみそ汁を食べることが出来るね。」と私に言った。それを聞いて、やはり私は日本人で、和食が恋しくなるんだと思った。寿司がテーブルに運ばれて来た。日本の寿司屋と変わらないくらいの味で美味しかった。でも日本の寿司ネタの方が新鮮な感じがした。また、ロナリンと最終日にゆっくりお話ができて楽しかった。寿司屋を出て、アジアショップとスーパーに行った。アジアショップには韓国、中国のものに加えて日本のお菓子やお米が売られていて、日本が世界中に認められている気がして嬉しくなった。「他にいきたいところはある？」と言われたので、私はタリンナが通っている



寿司レストラン



セント・ピーターズバーグ高校

高校に連れて行ってもらった。タリンナが通っているセント・ピーターズバーグ高校は「昔からある古い高校だよ。」と教えてくれた。残念ながら夏休み中だったため、校内に入ることは出来なかった。入口の掲示板に貼ってあった年間予定表を見てみると、5月末から8月初旬まで夏休みと書いていて、羨ましく思った。ロナリンには、生徒はみんな自分で車を運転して登校することや、高校受験なく入学することが出来ることを教えてもらった。私が通う高校とは違うことがたくさんあって、もっと色々な国の学校生活を調べてみたいと思った。

夕方からはSPIFFSの送別会へ向かった。そこでは3回目のプレゼンテーションをした。今までで1番多くの人前で発表した。他にもSPIFFSの人の口

シアのダンスパフォーマンスやスコットランドの歌の披露があった。初めて民族のダンスを見てもっとたくさんの異文化に触れてみたいと強く思った。それからは多国籍料理を楽しんだ。唐揚げや稲荷寿司、春巻きなどの日本料理も数多く準備されていた。デザートもあり、クッキー、ケーキ、ドーナツなどどれも美味しくて食べ過ぎてしまうほどだった。全員で集合写真を撮り、色々な方々とコミュニケーションを取る良い機会だった。帰宅して、荷物をまとめていると明日日本に帰る実感が湧いてきて本当に寂しくなった。最終日の夜はタリンナ、ジェームズ、アヤ、ハンター、私の5人で初日と同じように家で映画を観て楽しみ、明日の早起きに備えてベッドに入った。



ホストファミリーのみなさんと

8月1日(水)

朝4時前に起きて、最後にローラと忘れ物がないかチェックをし、タンパ空港へ向かった。まだ暗い景色を車の窓から眺めながら、セント・ピーターズバーグ市を離れるのがとても悲しいと感じていた。タンパ空港に着き、荷物を預けるのもタリンナとロナリンが手伝ってくれた。ついに別れの時。もっとタリンナと一緒に話がしたかったし、もっと一緒にいたいと思った。そして絶対また会おうねと約束をした。みんなで写真を撮り、ロナリンと別れのハグをした。見送ってくださる1人1人に別れの挨拶をして、タンパ空港を出発した。そうして私の高松市親善研修生としてのセント・ピーターズバーグ市での研修を終えた。



ホストファミリーへのメッセージ

8月2日(木)

成田空港に着いた。飛行機を降りた瞬間、とても暑く感じた。日本に帰ってから気づいたことだが、セント・ピーターズバーグ市は、直射日光は強いが湿度を感じず、からっとした暑さだった。それに比べて、日本の暑さは湿度が高くじめじめした暑さである。長時間のフライトと10日間の疲れが溜まっていたのか、私たち研修生3人は少しの時間があれば寝ていた。バスで羽田空港まで移動し、羽田空港で出発までの待ち時間におにぎりを買って食べた。久しぶりのおにぎりは、いつもより何倍か美味しく感じた。夕方の高松空港着の便で羽田空港を出発し、1時間半ほどで高松空港に到着した。高松空港では、家族が迎えに来てくれていた。家族の顔を見たときは、無事に帰ってくることができたという安心感と同時に、もう帰ってきてしまったのかという寂しさで複雑な気持ちだった。家に帰る車の中では、セント・ピーターズバーグ市での様々な出来事、ホストファミリーとの生活、自分が考え、感じたことなどたくさんのお話をした。これからは家族だけでなく学校の友達、先生などまずは身近な人に積極的に今回の経験を広めていき、もっと多くの人に異文化交流に興味を持ってもらいたいと思う。本当に自分のこれからの人生にとって大きな影響を与えてくれた素晴らしい研修になった。それと同時に私にこのような経験をさせてくれた全ての方々に感謝の気持ちでいっぱいである。

感想文



香川県立高松西高等学校 2年
山之内 萌

世界の広さを実感した10日間

セント・ピーターズバーグ市での滞在は私にとってとても充実したものでした。

行く前まで不安に思っていたり、色々考えたりしていたことも、現地に行き自分の五感を使って感じることで学ぶことがたくさんありました。

特に、コミュニケーションの面です。自分の思っていることをうまく伝えられるかどうかということだけを考えていましたが、実際現地に行ってみると、ネイティブの英語を聞き取ることも同じぐらい難しいと感じました。学校の英語の授業だけでは、やはり本物の英語に触れる機会は少なく、実際にコミュニケーションを取るための英語を身に付けることは厳しいと感じました。このようなことはいくら日本で考えても分からないことです。自分に足りないことをたくさん知ることができたのも、私にとって大きな収穫です。

さらに、現地で実際に出会ったたくさんの方々の、前向きな考え方、好きなことに本気でぶつかっていく姿を見て、自分は色々な事を吸収する大きな心を持ち、前向きに明るく自分自身の視野をもっともっと広げていきたいと思いました。

今回の研修での異文化交流で、私が今まで知らなかったことを多く学べ、これからもっとたくさん地域の文化を学びたいと強く思うようになりました。そのためには、まず自分の故郷である高松の魅力や日本の文化について勉強していきたいと思います。

今回の研修がゴールではなく、大きな第一歩として進んでいきます。

